ゲゲゲBOOK

劇場版 THE MOVIES

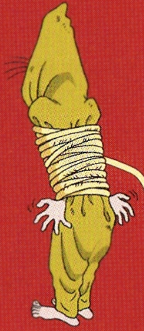




ゲゲゲの鬼太郎
妖怪大戦争
ゲゲゲの鬼太郎
ゲゲゲの鬼太郎
ゲゲゲの鬼太郎
ゲゲゲの鬼太郎
大海獣
ゲゲゲの鬼太郎
おばけナイター
ゲゲゲの鬼太郎
ゲゲゲBOX
THE MOVIES

ゲゲゲのもくじ 劇場版







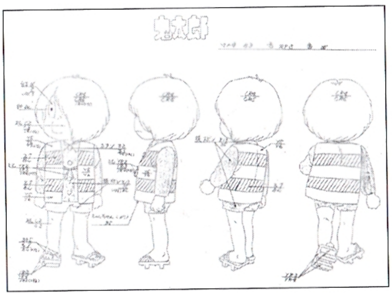
公開日／1985年12月21日
脚本／星山博之　監督／白土 武
作画監督／山口泰弘　美術監督／伊藤岩光

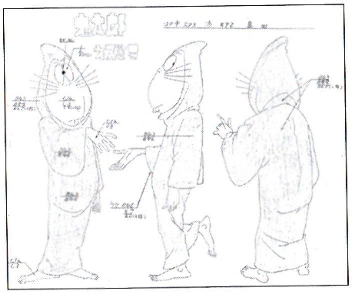
あらすじ

日本に南方妖怪が上陸した。世界では妖怪連合が結成され、その地位は人間より高く、日本妖怪の犬猫同然の生活ぶりを嘆いた。南方妖怪のリーダー、チンポはねずみ男からその原因が鬼太郎にあることを聞き、ユメコを誘拐。鬼太郎を誘き出すと、アカマタらに襲わせた。鬼太郎も砂かけ婆らの協力を得て反撃！　黒幕のぬらりひょんも現れ、激戦となる。だが、寝返ったねずみ男の活躍もありユメコを無事救出、南方妖怪軍の撃退に成功した。

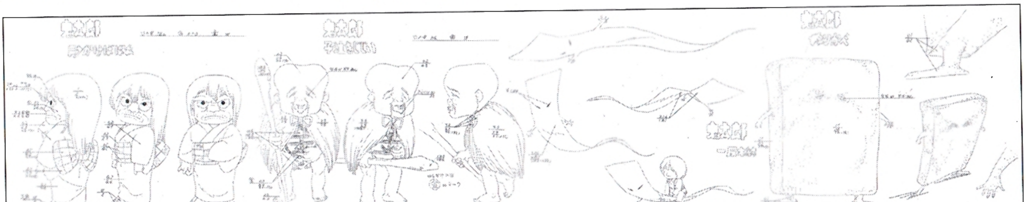
原作及び脚本

原作は『週刊少年マガジン』1968年4月21、28日（第17、18）号に掲載された「妖怪軍団」（前後編）。原作にはぬらりひょんもチンポも登場しない。脚本では冒頭、チンポとぬらりひょん二人だけの密談となっており、熱帯植物園での鬼太郎とねずみ男の会話やアカマタらの登場の仕方も大きく異なっている。





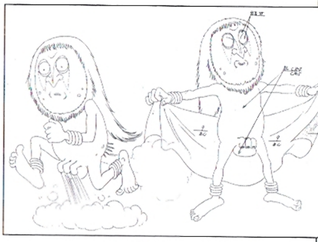


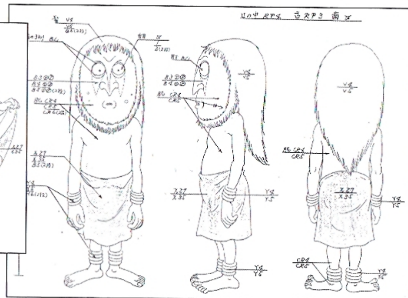


ゲゲゲの妖怪図鑑 其之壱

チンポ

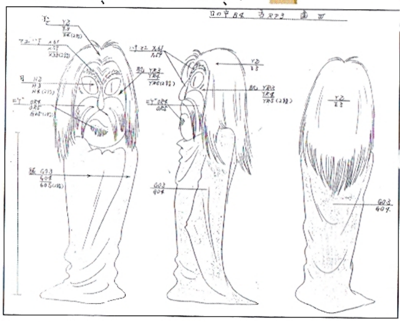
南方妖怪軍のリーダー格で、ぬらりひょんと手を組む。日本の妖怪たちの生活向上に全面協力を約束し、配下のアカマタ、やし落し、キジムナーを使い鬼太郎を倒そうとする。最後はぬらりひょんとボートを取り合った挙げ句、ボートが壊れ自力で飛び去って行った。

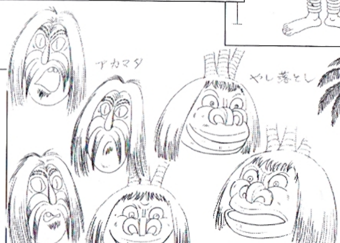




アカマタ

やし落しと共に日本に上陸した南方妖怪で、口から粘着力の強い唾液を吐き出す。他の生物に寄生して操り、相手に抱きついて生気を吸い取ってしまう。この術でねずみ男に取り憑き、鬼太郎の妖気を吸い取るが、目玉おやじが体内に入って暴れたためパンクして消え去った。

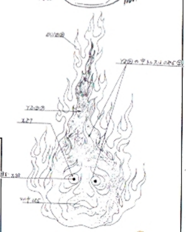


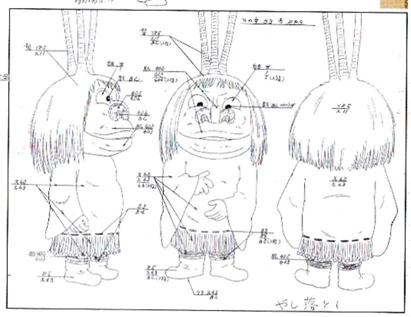


やし落し

チンポ配下の南方妖怪のひとり。頭に生えたやしの木を振り回して大風を起こし、さらにやしの実を飛ばして相手に命中させ、倒す。つるべ火によって火を着けられ、燃え去った。

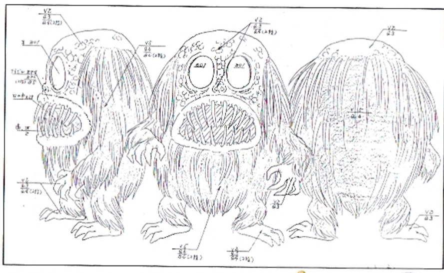






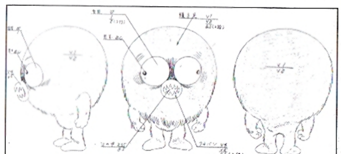
つるべ火

鬼太郎に召還されて森に火を放ち、やし落しを火攻めにして倒した。



蛟竜

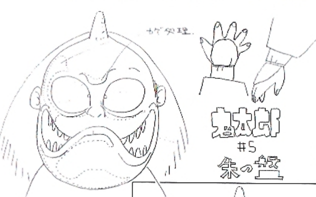
ぬらりひょんの命令で、海中から鬼太郎たちの乗った船を襲った巨大妖怪獣。一反もめんに目を塞がれ、方向を見失ってチンポの戦艦に激突！　爆発に巻き込まれて消えた。

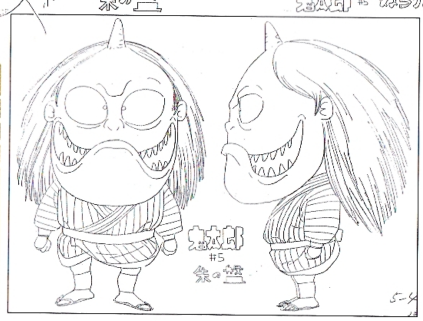


キジムナー

チンポ配下の妖怪で2匹いる。主にチンポの戦艦内で活動。寝返ったねずみ男がユメコを連れて逃亡したため、艦内で壮絶な追いかけっこを展開するが、ねずみ男の策にハマり1匹は海に落ち、残る1匹は戦艦と運命を共にしたと思われる。

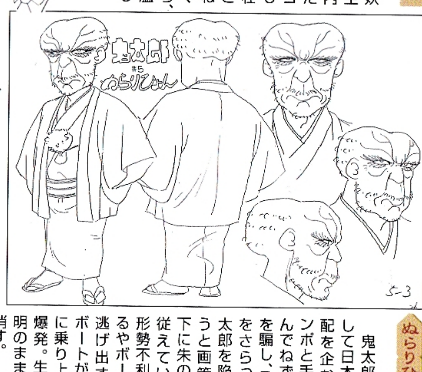






朱の盤

ぬらりひょんの片腕として登場。彼のサポートに徹していたが、チンポの戦艦に乗っていたところを蛟竜に激突され、以後生死不明のまま。



ぬらりひょん

鬼太郎を倒して日本の支配を企む。チンポと手を組んでねずみ男を騙し、ユメコをさらって鬼太郎を陥れようと画策。配下に朱の盤を従えている。形勢不利と見るやボートで逃げ出すが、ボートが岩礁に乗り上げて爆発。生死不明のまま姿を消す。

ゲゲゲの鬼太郎

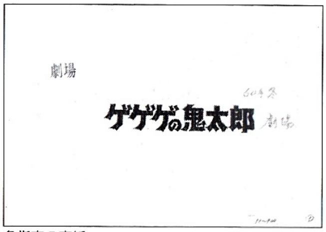
映倫ＮＯ／25037号
初　号／1985(昭和60)年12月6日
封　切／1985(昭和60)年12月21日
上映時間／23分55秒10K
作画枚数／6,466枚

〈オープニングクレジット〉

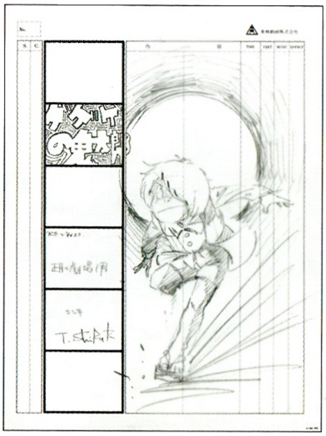
■[東映動画マーク]■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■原作／水木しげる　講談社（コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち）連載■脚本／星山博之■音楽／川崎真弘（ From 竜童組 ）■主題歌　「ゲゲゲの鬼太郎」　作詞・水木しげる　作曲・いずみたく　編曲・野 村　豊　うた・吉　幾　三　「おばけがイクゾ〰」　作詞・吉　幾　三　作曲・吉　幾　三　編曲・野 村　豊　うた・吉　幾　三（徳間ジャパン）■撮影監督／菅谷信行■編集／花井正明■録音／蔵本貞司■美術監督／伊藤岩光■作画監督／山口泰弘■製作担当／松下健吉■演出／白 土　武

〈エンディングクレジット〉

■声の出演／鬼　太　郎(戸田恵子)、、目　　玉(田の中　勇)、、ねずみ男(富山　敬)、、子なきじじい(永井一郎)、砂かけばばあ(江森浩子)、一反もめん(八奈見乗児)、ぬりかべ(屋良有作)、ネ コ 娘(三田ゆう子)、ユ メ コ(色川京子)、、妖怪チンポ(滝口順平)、ぬらりひょん(青　野　武)、やし落とし(山下啓介)、アカマタ(宮内幸平)、朱 の 盤(小林通孝)、キジムナー(松井摩味)　協　　力／青二プロ■原画／直井正博、坂井俊一、藤岡正宣、吉田利喜、富沢雄三、河野宏之、芹田明雄、森田奈苗■動画／田中　勇、岡安敏子、佐藤伸哉、上野阿津子、杉森正人、市橋則子、江口　洋、君塚勝教、緑戸徳郎、中村　裕、夏門文三、亀田真須美、天光寺哲章、山本治代、坂本秀美、犬塚英文、高島孝広、岩井優器、山之内ユキ、山田雄二■背景／池田祐二、高田茂祝、山元健生、土井則良、小笠原ゑつこ、佐貫利勝■仕上／坂野園江、鈴木悠子、堀井安子、向山正絵、我妻恵子、岸本弘子、平塚美代子、高橋　章■検査／坂本陽子■特殊効果／山本　公、中島正之■撮影／宮本勝啓、菅谷英夫、神山茂男、高石　稔、田口久男、山川　進■音響効果／今野康之■選曲／田中英行■ネガ編集／喜多伴子■仕上進行／植木知子■美術進行／田村晴夫■助監督／堀川和政■製作進行／岡田将介■記録／竹澤裕美子■録音スタジオ／タバック■現像／東映化学



色指定の表紙


絵コンテの表紙

白土さんは原画には全部目を通していたようです
山口泰弘インタビュー

やまぐち・やすひろ
『ゲゲゲの鬼太郎』作画監督



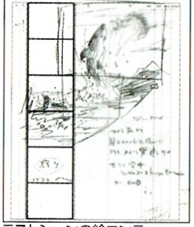
PROFILE 1946年7月2日生。和歌山県出身。サンプロ、東映動画（現・東映アニメーション）、スタジオNo.1などを経て'82年、スタジオカーペンターの社長に就任。キャラクターデザイン、作監を務めた代表作は「森は生きている」（80年）『魔法使いサリー[新]』（89年）など。

僕は『鬼太郎』の第2期の作画に、あと少しのところで参加し損ねているんです。ちょうど同じ時期、ネオメディアというスタジオを経営していた木村圭市郎さんから『ルパン三世』（71年）をやろうと誘われて、東映動画を辞めてしまったんですよ。退社を決めた後に、自分の机の上を見たら『鬼太郎』第1話のコンテが置いてあった……そんな思い出があるものだから、第3期が始まるという話を聞いたとき、「是非やりたい」と東映動画の部長に頼んだんです。

最初の劇場版に関しては、完全にテレビシリーズと並行しての作業でした。尺も短かったから、テレビをもう1本やっているような感覚しかありませんでした。キャラクター設定は、メインについてはもちろん兼森義則さんですが、チンポなどのゲストの妖怪については、東映動画の海外班にいた宮本貞雄さんが担当していました。僕はデザインには一切関与せず、作監のみに集中したんです。自分では原画も描いていません。うち（スタジオカーペンター）のスタッフもテレビの『鬼太郎』と掛け持ちだったから、わずかしか原画に参加していませんね。「もっと描いてよ」と言われたけど、余裕がありませんでした。

監督の白土武さんはアニメーター出身なので、原画には全部目を通していたようです。最後のほうは時間がなくて、言い方は悪いけど、僕が結構〝流して〟作業をしていたのね。白土さんはそれが我慢できなかったんじゃないかな。どうもこっちに回って来ないカットがあるな、と思いつつ、シリーズの打ち合わせでたまたま東映のスタッフルームへ行ったら、白土さんが一生懸命波を修正してるの。「あれ、まだカットがあったの？」って言ったら、「いや、あまり作監に迷惑かけちゃいけないから」って（笑）。あれは悪いことしたな。とにかく、後半は「しんどいな」「このカット、キャラ似てないな」「このカット、リテイク出したいな」って言いながらやっていた記憶があります。

（2007年 5月）


ラストシーンの絵コンテ

横山賢二スペシャルインタビュー

"人間、妖怪、動物、すべては対等の立場なんだよ"というメッセージ



よこやま・けんじ

『ゲゲゲの鬼太郎』企画、プロデューサー
『ゲゲゲの鬼太郎[劇]』プロデューサー
『ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争』プロデューサー
『ゲゲゲの鬼太郎 最強妖怪軍団!日本上陸!!』プロデューサー
『ゲゲゲの鬼太郎 激突!!異次元妖怪の大反乱』企画

PROFILE 1939年3月31日生。福島県出身。'62年7月、東映動画入社。企画・プロデュースを手掛けた代表作は『魔法使いサリー』(66年)『マジンガーZ』(72年)『銀河鉄道999』(78年)など。

――『ゲゲゲの鬼太郎』の第3期シリーズを始められたきっかけは?

横山 前作の終了(72年)から10年以上の年月が経ち、そろそろ新たな『鬼太郎』が登場する時期なのでは、と思ったんですね。講談社さんを通じて、水木しげる先生のご意向を打診したところ「先生はOKです」と。しかも、講談社さん自身も3度目のアニメ化に大変乗り気でした。そこからすべてが始まったんです。

――人間の女の子をレギュラーにする構想はいつ頃からお持ちだったんですか。

横山 最初からありました。水木先生にお会いしたとき、まず申し上げたのは、今度のアニメでは"人間世界"対"妖怪"という図式を強調したくない、ということでした。対立ではなく、むしろ両者の共存をテーマとして描きたい。そのためには鬼太郎と人間世界との間に、いわば橋渡しとなるキャラクターが必要で、できればそれは女の子にしたいと。水木先生は、快諾してくださいました。もっとも、毎回登場するとは思っていらっしゃらなかったかもしれませんが(笑)。

――キャラクターデザインに兼森義則さんを起用されたのは?

横山 それまで、僕の作品によく参加してくれていたんです。特に『1000年女王』(82年)での頑張りが記憶に残っていたので、僕から「やりませんか?」と声をかけました。

――シリーズの頭の頃は、敵妖怪のデザインを宮本貞雄さんが分担されていた、ということらしいですね。

横山 これは私の判断ではないんです。当時、製作担当の江藤昌治さんから提案され、一部を宮本さんにお任せしました。詳しいいきさつは知りません。

――劇場版についてはどのような構想をお持ちでしたか。

横山 最初に考えたのは、テレビとの内容を区別するために、必ず日本の妖怪じゃないものを持ってこようと。だから1本目を南方、2本目を西洋、3本目を中国にしたんです。4本目の異次元もまぁ、日本以外ということで(笑)。

1本目は尺も短く、コミカルな要素も多かったので、ギャグ的な表現がうまい演出家として白土武くんを選びました。

続く2本目は、テレビも軌道に乗った時期なので、葛西(治)くん、兼森くんというメインスタッフにやってもらおうと。土田(勇)くんはテレビのメンバーではなかったけれど、葛西くんが「是非」と言うのでお願いしました。ちょうどこの年はハレー彗星が接近するので、星山博之くんがその設定を織り込んだ脚本を仕上げてくれました。

――星山さんは4本のうち、3本の脚本を書かれていますね。

横山 彼は、ずっと私の作品で育ったライターなんです。この『鬼太郎』の時期、私のなかには"今がライターとして一番脂が乗っている時期だな"という実感みたいなものがありました。それで、劇場版を連続してお願いしました。

2本目のとき、観終わった後、「何でユメコが出ないの?」と言った子どもがいたんです。それで、ひとつの反省として、次の『最強妖怪軍団』ではユメコの見せ場を作ることにしました。3本目の監督に芹川有吾さんを選んだのはね、クライマックスに空中戦のアクションがあったからです。『わんぱく王子の大蛇退治』(63年)でもお分かりのように、空の戦いなら芹川さん、という思いがありましたから。

――物語のラストは盆踊りシーンで締めくくられていますね。

横山 夏の映画だし、"反物""浴衣"という連想から最後は音頭だろうと(笑)。

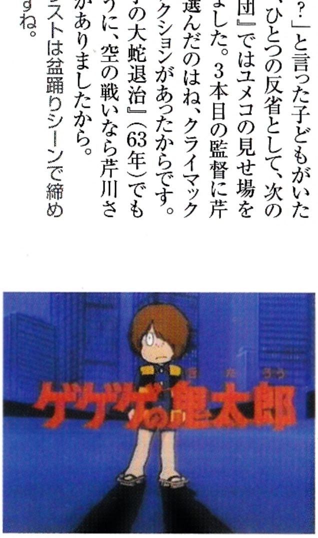
最後の『異次元妖怪の大反乱』は、一番思い出深い作品ですね。芝田浩樹くんを中心に、脚本に武上純希くん、作画監督に入好さとるくんと、今後に期待できるスタッフを集め、若さにあふれた作品を目指しました。この映画では最初から、ねずみ男の魅力を表面に出したいという意図がありました。その狙いは成功したんじゃないかな。

――横山さんが『鬼太郎』を通じて表現したかったことは何でしょう?

横山 "人間、妖怪、動物、すべては対等の立場なんだよ"というメッセージですね。『鬼太郎』という作品は、僕にとっては怪奇物でもホラーでも、日本昔話でもないんです。外見や出身の違いで優越感や差別意識を持つのではなく、もっと周りの人たちと仲良くやっていこうよ、という願いを込めた物語だったということです。

実は、第3期のあと、兼森くんと一緒に次のシリーズの準備も進めていたんです。『鬼太郎の国盗り物語』を原作にね。幻の企画となりましたが……。

(2007年6月)

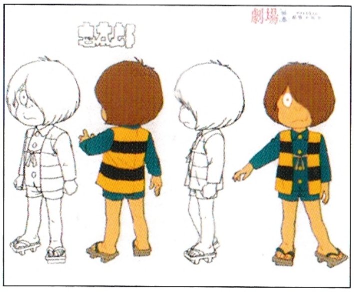


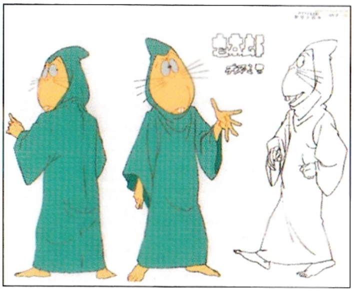
『ゲゲゲの鬼太郎』第3シリーズ・オープニングのタイトルバック



ゲゲゲの鬼太郎
妖怪大戦争

公開日／1986年3月15日
脚本／星山博之　監督／葛西 治
作画監督／兼森義則　美術監督／土田 勇





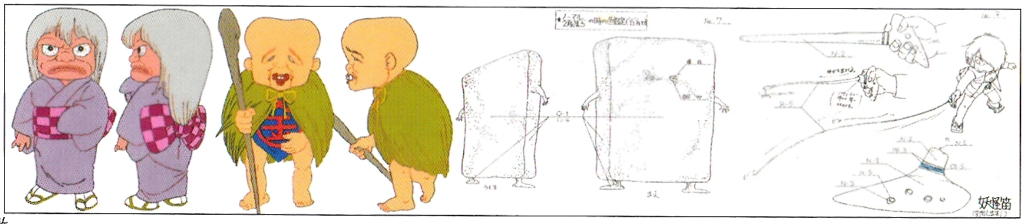


あらすじ

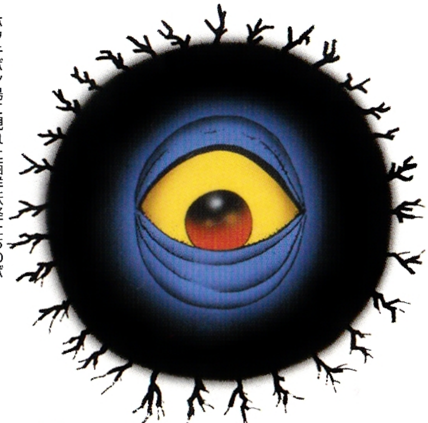
ホウキボシ島を西洋妖怪軍団が急襲。島民たちを服従させ、砦を建設し始めた。そこに世界中の妖怪たちを集めようというのだ。鬼太郎は島のアキオ少年に頼まれ、日本妖怪を集めて島に乗り込んだ。西洋妖怪は強敵で、一度は鬼太郎らも窮地に追い込まれた。だが、島民たちの加勢を受けて逆襲に転じた鬼太郎はバックベアードと対峙する。折しもハレー彗星接近の影響で島には巨大な水柱が立つようになっていた。鬼太郎らはこれを利用して砦を崩壊させ、西洋妖怪を一掃したのだった。

原作及び脚本

原作は『週刊少年マガジン』66年4月17～5月8日（第15～18）号に掲載された「妖怪大戦争」。原作では島の名前は〝鬼界ヶ島〟。脚本ではアキオの両親やキジム爺の名称はなく、祈祷師やワイドショーの司会者は登場せず。ラストは宇宙まで立ち上った水柱がハレー彗星に吸い寄せられるシーンで終わっていた。



バックベアード



ホウキボシ島に現れた西洋妖怪たちのボス。島民を催眠術で操り、砦を建設して全世界に散っている配下の妖怪を集結させ、日本を征服せんとした。強力な眼力で金縛りにかけ、相手の自由を奪う。巨大な単眼からは岩をも砕く光線を照射。体内は異次元(宇宙?)空間と繋がっており、吸い込まれれば二度と戻ることはできない。竜巻で壊れた砦の一部が目に刺さり、弱ったところを鬼太郎に攻撃され、竜巻と共に姿を消した。

フランケン



バックベアード配下の西洋妖怪のひとりで怪力の持ち主。その力はぬりかべをもしのぐ。なぜかクモやイモ虫といった昆虫が苦手で、見ると慌てて逃げ出してしまうほど。巨大竜巻に飲み込まれて姿を消した。

ドラキュラ



バックベアード配下の西洋妖怪のひとり。生物の生き血を吸って、ミイラにしてしまう。一反もめんを簡単に切り裂いてしまうほどの鋭い牙を持つ。コウモリの姿となって空を飛ぶ。最後は巨大竜巻に飲み込まれてしまった。

魔女



バックベアード配下の西洋妖怪のひとり。ほうきに乗って飛行し、空中での戦闘を得意とする。鎌を武器とすることも。巨大竜巻にほうきごと飲み込まれて、その姿を消してしまった。

狼男



バックベアード配下の西洋妖怪のひとり。手下に12、13匹の吸血狼たちを従え、様々な命令を与えて行動させ、昼間は自らが動くことは少ない。巨大竜巻に飲まれて姿を消した。

吸血狼



狼男配下の妖怪。ドラキュラらの命令にも従う。集団攻撃が得意。砦建設時に人間たちの見張りをしていたが、砦崩壊と同時に全滅したもよう。

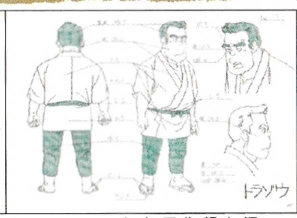
アキオ（声／頓宮恭子）

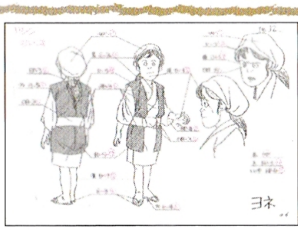


ホウキボシ島の少年。島を脱出して鬼太郎らに助けを求め、一緒に島に戻ってからは鬼太郎らのバックアップに努めた。

虎造（声／増岡 弘）

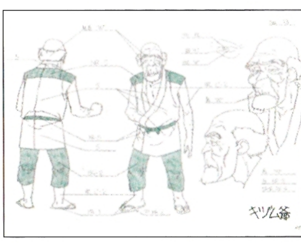
ヨネ（声／向井真理子）





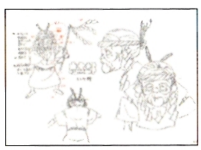
アキオの逞しい父親と優しい母親。虎造は先陣を切って鬼太郎たちに加勢した。

キジム爺（声／山内雅人）



ホウキボシ島の長老的存在で、島のことを知りつくしている。鬼太郎らを知識でサポートした。

祈祷師（声／津田延代）



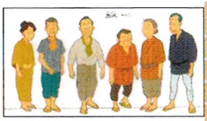
ホウキボシ島の祈祷師。島の異変＝神の怒りを鎮めるために祈祷した。

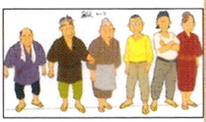
司会者（声／広中雅志）



アキオが助けを呼びかけるために出演したワイドショーの司会者である。

島民







東映動画の伝統的な制作方法、そのシステムの踏襲をしたいと考えました

葛西治インタビュー



かさい・おさむ
『ゲゲゲの鬼太郎［第3期］』シリーズディレクター
『ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争』監督

PROFILE 1941年11月11日生。北海道出身。'64年5月、東映動画に入社。代表作は『龍の子太郎』（アニメ監督／79年）『とんがり帽子のメモル』（SD／84年）『魔法使いサリー［新］』（SD／89年）など。

『妖怪大戦争』は星山（博之）さんのシナリオが面白くてね。是非、ハリウッドのアクション映画のようなスリリングな作品にしたい、と思ったんです。そのためには、アニメーターや美術のスタッフに積極的に参加してもらい、どんどんアイディアを借りていきたかった。僕は絵心はないから（笑）、監修者に徹して全体を構成し、あとは絵描きの人たちに思う存分遊んでもらおうと。これは東映動画の伝統的な制作方法であり、僕はそのシステムの踏襲をしたいと考えたわけなんです。

土田勇さんには、僕が直接声をかけて参加してもらいました。彼はかなり早い段階でホウキボシ島の海岸や岩山、鬼太郎の家、工事中の砦など、ポイントとなる舞台の美術ボードを描き上げてくれました。僕はそれを壁に貼り付け、絵コンテを描き始めたんです。土田さんのボードを見ていると、イメージがどんどん浮かぶんですよ。本当に助けられましたね。

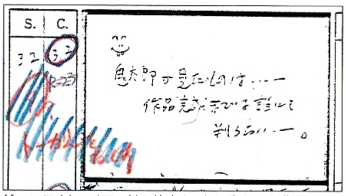
スタッフルームには、僕と兼森（義則）くん、そして製作担当の松下（健吉）さんの3人が常駐し、そこに土田さんが通ってくる形で準備を進めました。当時、僕はヘビースモーカーだったんですが、兼森くんは煙が大嫌いでね（笑）。一大決心をして煙草をやめ、会社に頼んで換気扇を設置してもらったこともいい思い出です。

この作品では、アップやバストサイズを多用するテレビアニメ的な見せ方ではなく、拡大されたスクリーンのなかで複数のキャラクターが演技する、密度の高い画面作りを目指そうと話し合いました。レイアウトは特に重視しましたね。各原画マンが上げてきたレイアウト（画面構成）を兼森くんがすべて監修し、土田さんがさらに修正を入れ、最終的に僕がチェックするという行程は最後まで守りました。

砦のなかで鬼太郎やアキオが狼男たちと鉢合わせするシーンは、スタジオ・バードの3人（兼森義則、稲野義信、及川博史）に絵コンテも含めてまるまる預けてみようとした部分です。最終的に作画は稲野くんが担当したんですが、作画打ち合わせが年内に終わらず、焦った記憶が強く残っています。あと、鬼太郎がベアードの体内で目撃する異次元の光景については、最後に考えようということで保留にしたんです。絵コンテには思わせぶりな書き方をしてね（笑）。奥深い妖怪の世界を垣間見せるようなサスペンスにするつもりでしたが、ちょっと消化不良に終わってしまいましたね。

実際、ものすごいハードスケジュールのなかでの作業でした。シナリオ第二稿の段階で絵コンテを描き始め、12月中旬に作画打ち合わせを開始。アフレコが2月28日と決まっており、殆ど時間がありませんでした。僕はテレビのシリーズディレクターを兼任しつつの作業でしたし、組合の役員もやっていた。おまけに……これが精神的には一番ウェイトを占めていたんですが、自分の家を新築中で不動産屋とモメていたんです。年齢は44歳となり、職業人としてアニメ制作に関わっている自分を見つめ直している時期でもありました。理想は高く持ちながらも、映画作りだけに集中できず、さまざまな迷いや後悔が残ったことも事実です。『鬼太郎』、そしてこの『妖怪大戦争』という映画は、僕にとって人生の節目とも重なる感慨深い作品なんです。

（2007年6月）

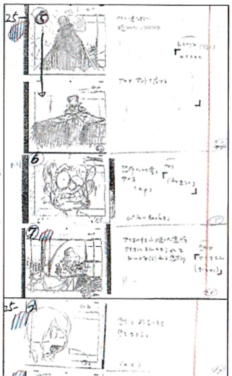


絵コンテより、ベアードの体内カットに書かれた指示

●稲野義信氏によるレイアウト絵コンテ

インタビューでも触れられている砦の室内シーン。絵コンテでは、この箇所のみ原画担当の稲野氏によるレイアウト（縮小コピー）が切り貼りされている。以下は稲野氏による証言である。

「年末、スタジオ・バードのメンバーが葛西さんに呼ばれ、〝このシークェンスを試しに作ってみない？〟と話しかけられたんです。で、誰がやるかと3人でもめた後、兼森さんは作画監督の仕事が一杯でできない、及川さんは原画が目一杯あってできない。で、残りカットの少ない私のところに白羽の矢が飛んできたわけです。葛西さんに字コンテのチェックを受けた後、OKが出たものを絵コンテにしました。年末から年始にかけては、並行して作画も始めたのかな。相当ゴチャゴチャしていた記憶です。このシーンはコントラストを強調したり、影の境界を実線で描いたり、ちょっと実験的なことをやってみたんです。本当に異質なんですよね。そういう意味では、葛西さんは気持ちよく受け入れてくださったと思います」。



ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大戦争

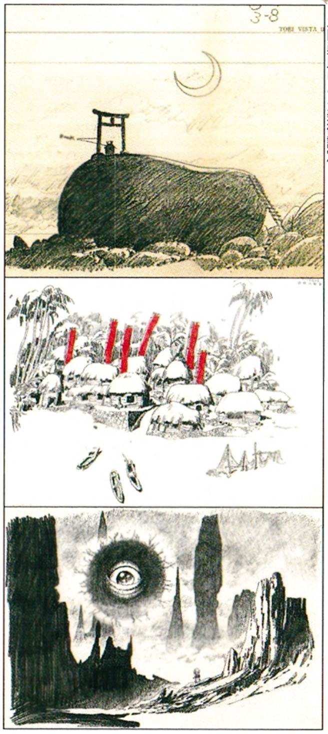
映倫NO／25061号
初　号／1986(昭和61)年3月8日
封　切／1986(昭和61)年3月15日
上映時間／39分32秒4K
作画枚数／13,679枚

〈オープニングクレジット〉

■▲■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■原作／水木しげる　講談社（コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち）連載■脚本／星山博之■音楽／川崎真弘（From 竜童組）■主題歌「ゲゲゲの鬼太郎」作詞・水木しげる　作曲・いずみたく　編曲・野村豊　うた・吉幾三「おばけがイクゾ〰」作詞・吉幾三　作曲・吉幾三　編曲・野村豊　うた・吉幾三（徳間ジャパン）■撮影監督／菅谷信行■編集／吉川泰弘■録音／蔵本貞司■美術監督／土田勇■作画監督／兼森義則■製作担当／松下健吉■監督／葛西治

〈エンディングクレジット〉

■声の出演／鬼太郎(戸田恵子)、、目玉(田の中勇)、、ねずみ男(富山敬)、、子なきじじい(永井一郎)、一反もめん(八奈見乗児)、砂かけばばあ(江森浩子)、ぬりかべ(屋良有作)、ネコ娘(三田ゆう子)、、ベアード(柴田秀勝)、ドラキュラ(村越伊知郎)、魔女(三輪勝恵)、フランケン(西尾徳)、狼男(大竹宏)、吸血鬼A(小林通孝)、吸血鬼B(田中和実)、吸血鬼C(平野正人)、、アキオ(頓宮恭子)、虎造(増岡弘)、ヨネ(向井真理子)、キジム爺(山内雅人)、祈祷師(津田延代)、司会者(広中雅志)　協力／青二プロ■原画／稲野義信、音無竜之介、金津賀博、鈴木しゅんじ、菜明、深沢幸司、新岡浩美、入好さとる、柳瀬譲二、大鹿日出明■動画／谷畑博是、西村智、三橋久美子、稲田浩、河本朋美、鴨川浩、武藤公春、田村俊也、日下直義、峯崎雅広、亀田真須美、東出太、森本知枝、今井宏昌、清水明美、讃岐平■動画チェッカー／山田雄二■背景／飯島由樹子、中山恭子、金山文美、小林勝寿、猪田薫■仕上／高橋章、村野綾子、武笠孝、鈴木聡子、須田美津江、宗高子、横山浩子、板坂泰江■検査／辻田邦夫■特殊効果／佐藤章二■撮影／宮本勝啓、菅谷英夫、神山茂男、高石稔、田口久男、山川進■音響効果／今野康之■選曲／田中英行■ネガ編集／福本一枝■仕上進行／冨永勤■美術進行／中村実■助監督／堀川和政■製作進行／鈴木利之■記録／竹澤裕美子■録音スタジオ／タバック■現像／東映化学



土田勇氏による美術設定

劇場用に起こしたキャラ設定がテレビでも使われちゃいました

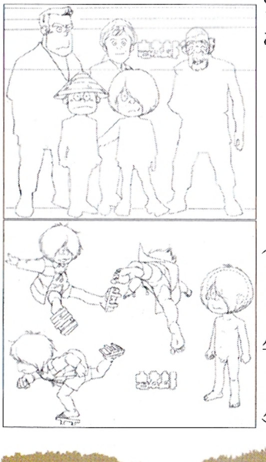
兼森義則インタビュー



かねもり・よしのり
キャラクターデザイン
『ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大戦争』作画監督

PROFILE　1949年5月23日生。広島県出身。スタジオバードを経て現在はマッドハウス所属。代表作は『X電車で行こう TAKE THE X TRAIN』(87年)『ひみつのアッコちゃん』(88年)『YAWARA!』(89年)など。

劇場版のときに鬼太郎はキャラクター設定を新たに起こしました。寸詰まりっぽかったので、もう少しスッキリ、カッコよくしたほうがいいかなとテレビが始まってから思っていたので。単純にそのほうがいいかなぁと(笑)。まぁ、首がなかったり、手足が短いと動かしにくいというのもあったんです。ただ、自分としてはそれは映画のみの特別設定というか、そのつもりだったんですけど。それがなんでかその後テレビの設定として使われるようになっていて「ダメだよ！　それ映画のみのやつなんだから」って怒ったんですよ。でもなんとなく使われていましたね(苦笑)。



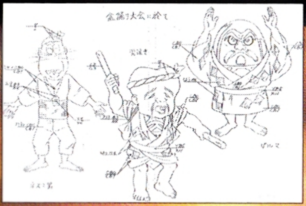
他のキャラクターはいじってなかったと思いますけど……ねずみ男は動きの参考設定を増やしたような気もしますね。

妖怪のデザインは、宮本貞雄さんという元タツノコプロの方が担当されました。吸血狼と魔女は間違いなく宮本さんですね。僕の描いたものは、キャラ表のどこかに鬼太郎のロゴが入っているんです。だからバックベアードも宮本さんかもしれませんね。宮本さんの起用は、多分、プロデューサーの横山賢二さんのほうでやり取りされたんだと思います。テレビシリーズも、最初から妖怪だけは宮本さんがデザインされていましたから。

スケジュール的には東映さんですから、映画は余裕を持って進めていましたね。多分、自分がやった第7話あたりと並行して進めていたはずですけど、苦しんだ記憶はないです。あとは、東映アニメーションの大泉スタジオ(東京都練馬区)に新館が出来た頃で、葛西(治)さんと一緒に詰めて作画していた思い出があります。

（2007年　6月）



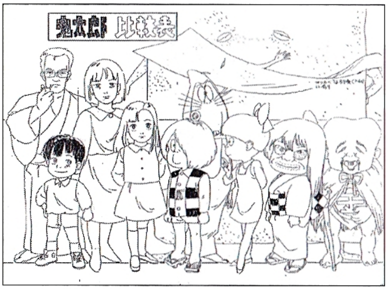




ゲゲゲの鬼太郎

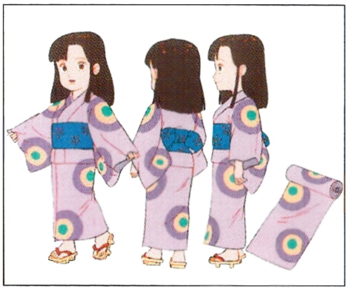
最強妖怪軍団！日本上陸!!

公開日／1986年7月12日
脚本／星山博之　演出／芹川有吾
作画監督／山口泰弘　美術監督／内川文広



あらすじ

中国からチー妖怪が一軍を率いて上陸して来た。その昔殺生石に封印された姉の仇を取らんと復讐に燃えるチーは、日本妖怪たちに秘薬を飲ませて反物に変え、その反物を人間に着せて操った。これを迎え討った鬼太郎も一度は反物にされたものの、仲間たちによって救出され元の姿に戻り、再び中国妖怪軍団と火花を散らす。今度は逆に鬼太郎がチーの秘薬を使ってチーを反物と化して勝利。反物にされた妖怪も操られていた人々も元に戻った。





61年夏「まんが祭り」劇場用

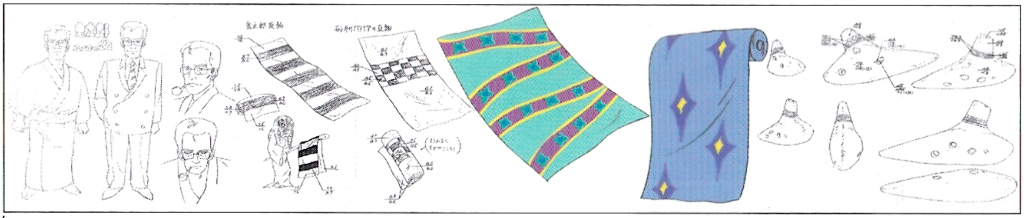
ゲゲゲの鬼太郎

「最強妖怪軍団！日本上陸!!」
—妖怪反物—より

東映動画株式会社
配給　東映株式会社

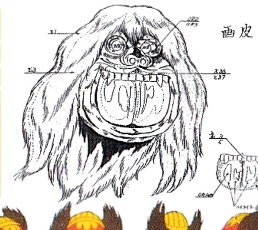
原作及び脚本

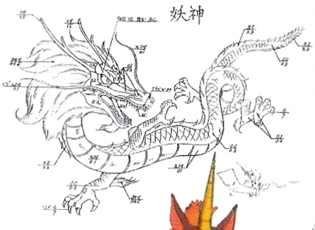
原作は『週刊少年マガジン』69年2月23日～3月23日(第9～13)号掲載の「妖怪反物」で、脚本のカバーにも〃—妖怪反物—より〃と記されている。脚本には、井戸仙人から鬼太郎らを元に戻す方法を聞いたネコ娘の「なんだ、そんなことでいいのか」とのセリフや子泣きじじいとのやり取りが存在しない。



ゲゲゲの妖怪図鑑 其之参









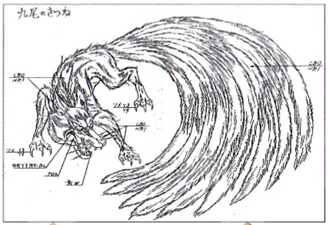




妖怪チー

日本妖怪を倒して日本征服を企む中国妖怪のリーダー。妖怪に丸薬を飲ませて反物化させ、その生地で作った着物を着た人間を操り妖怪城を構えた。鬼太郎も反物にしたが、反撃に遭い、九尾の狐の正体を現す。毒気を吹き出して鬼太郎たちを再び追い込むが、逆に丸薬を飲まされて最後は自ら反物になった。

九尾の狐



その昔、猛威を振るった悪の妖怪。日本に渡って来たところを武将に倒され、現在の那須高原にある殺生石と化していた。その弟がチーであり、彼は復讐のため日本へやって来たのだ。

天狗

チー配下の妖怪で側近的存在。他の妖怪たちが捕まえてきた妖怪に丸薬を飲ませて反物にしたり、反物をしまいに行ったりしていた。反物を盗んで逃げたねずみ男を追うが、木の上から落ちて来た子泣きじじいに押し潰された。

妖犬

天狗同様、妖怪城で待ちかまえ、捕らえられてきた日本妖怪を丸薬で反物に変えていた。天狗と共に反物を盗んだねずみ男を追ったところ、砂かけばばあの砂吹雪を浴びて砂となった。

角端獣

麒麟のような出で立ちで、敵を前足で踏み潰したり、後ろ足で蹴って打撃を与える。暴れ馬のように手のつけられない妖怪だったが、子泣きじじいに乗られて潰され、跡形もなく消し飛んだ。

山魈

体は小さいが強固な鎧に身を包み、身軽さと三つ叉の矛を武器に戦う。画皮の突進を喰らった黒怪物の鉄棒が飛んできて押し潰されてしまった。

画皮

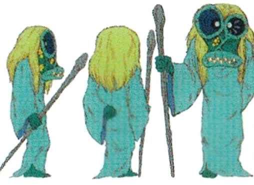
大きな顔だけの妖怪。口から黒い毒気を吐く。強敵だったが、鬼太郎に誘導されちゃんちゃんこ松明で燃え上がった妖神に激突。炎上しながら、さらに妖怪城に激突して倒れた。



妖神

紙の精にチーが墨で書いて現れた＝蘇らせた巨大な竜。鬼太郎の毛針を飲み込んで撃ち返す強敵。だが、元が紙なだけに火に弱く、ちゃんちゃんこにつるべ火ら火の妖怪を集めた松明によって燃やされ、画皮の突進を受けて運命を共にする。

井戸仙人

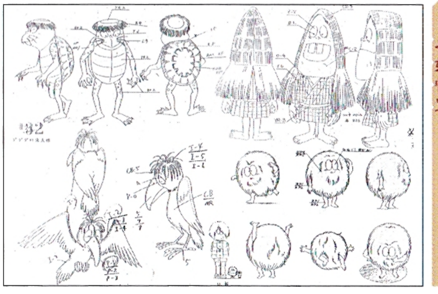


千年の間、古井戸に棲んでメタンガスを吸って生きている。中国妖怪のことに詳しい。目玉おやじに反物にされた鬼太郎らの還元法やチーの正体を伝授した。

桃源郷の娘

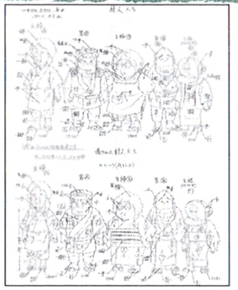
チーが鬼太郎を反物にする際に見せた幻覚。鬼太郎の戦意を喪失させた後、消滅した。

日本妖怪軍



チーの作った妖怪城に攻め込んだ日本妖怪たち。鬼太郎ファミリーの他、山小僧、のづち、だるま、あかなめ、カッパ、油すまし、天邪鬼、磯女、鏡じじい、ひょうすべ、かまいたち、ざしきわらし、さざえ鬼、かわうそ、かみなりなど約40体が参加。また、一反もめんをリーダーとし、化けガラスやふらり火から成る空軍、つるべ火、姥火らから成る火炎妖怪軍も存在。

主婦A（声／加藤雅子）
主婦B（声／小口久仁子）
主婦C（声／松井摩味）



チーに騙され、妖怪反物によって配下として使役されていた人々。他にも多勢の人間が操られていた。

ゲゲゲの鬼太郎　最強妖怪軍団！　日本上陸!!

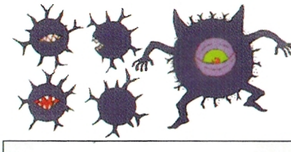
映倫ＮＯ／25103号
初　号／1986(昭和61)年7月4日
封　切／1986(昭和61)年7月12日
上映時間／49分22秒11K
作画枚数／10,770枚

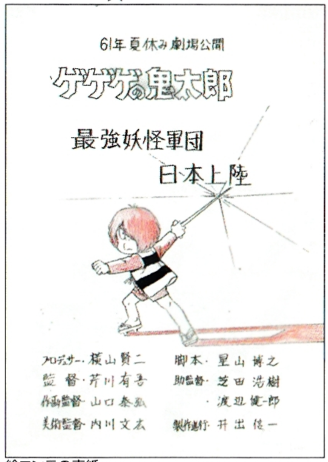
〈オープニングクレジット〉

■東映■製作総指揮／今田智憲■プロデューサー／横山賢二■原作／水木しげる　講談社｛コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち、週刊少年マガジン｝連載■脚本／星山博之■音楽／川崎真弘（From 竜童組）■主題歌「ゲゲゲの鬼太郎」作詞・水木しげる　作曲・いずみたく　編曲・野村　豊　うた・吉　幾三
「おばけがイクゾ〰」作詞・吉　幾三　作曲・吉　幾三　編曲・野村　豊　うた・吉　幾三（徳間ジャパン）■撮影監督／白井久男■編集／吉川泰弘■録音／蔵本貞司■美術監督／内川文広■作画監督／山口泰弘■製作担当／松下健吉■監督／芹川有吾

〈エンディングクレジット〉

■声の出演／鬼太郎(戸田恵子)、、目玉(田の中　勇)、、ねずみ男(富山敬)、、子泣きじじい(永井一郎)、一反もめん(八奈見乗児)、ぬりかべ(屋良有作)、砂かけばばあ(江森浩子)、ネコ娘(三田ゆう子)、、ユメコ(色川京子)、星郎(高坂真琴)、ユメコの母(川浪葉子)、ダルマ(大竹　宏)、呼子(杉山佳寿子)、火でり神(はせさん治)、丸毛(塩屋　翼)、天邪鬼(佐藤正治)、ばけ傘(小林通孝)、くらげ火(小野坂昌也)、主婦A(加藤雅子)、主婦B(小口久仁子)、主婦C(松井摩味)、井戸仙人(青野　武)、天狗(若本紀昭)、妖犬(戸谷公次)、山䲹(小宮山　清)、黒怪物(塩屋浩三)、くしゃみの精(丸山裕子)、チー(宮川洋一)　協力／青二プロ■原画／宇田川一彦、清山滋崇、越智一裕、稲野義信、直井正博、増田信博、門脇孝一、小山りょう、篠崎俊克、森田奈苗、河野宏之■動画／永島英樹、丸山千絵、亀田真須美、今泉　基、小野寺泰典、上野和美、加藤久和、加野　晃、五味豊明、星　篤、佐藤　智、池畠博基、臼井研二、渡辺美佐■動画チェッカー／山田雄二■背景／明石貞一、海老沢一男、小笠原ゑつこ、須田栄子、塩崎広光、安西哲夫、谷口百範、松宮正純、佐貫利勝、杉浦正一郎■仕上／高橋　章、香山君子、井田幸子、粕谷精作、田村明美、須田康子、甲斐広美、関　多加和■検査／坂本陽子■特殊効果／朝沼清良■撮影チーフ／大藤哲生　池上元秋、前原勝則、鈴木典子、佐伯　清、黒田洋一、池谷和美■音響効果／今野康之■選曲／田中英行■ネガ編集／福光衣久子■仕上進行／竹林直秀■美術進行／御園博■助監督／芝田浩樹、渡辺健一郎■製作進行／井出信一、上村康宏■記録／竹澤裕美子■録音スタジオ／タバック■現像／東映化学


くしゃみの精



絵コンテの表紙

ポケ〜ッとのんびり寝ているような、アクション派じゃない鬼太郎が好きなんです

山口泰弘インタビュー

やまぐち・やすひろ
『ゲゲゲの鬼太郎　最強妖怪軍団！日本上陸!!』作画監督



PROFILE　1946年7月2日生。和歌山県出身。サンプロ、東映動画、スタジオNo.1などを経て'82年、スタジオカーペンターの社長に就任。キャラクターデザイン、作監を務めた代表作は『1000年女王』（82年）『愛してナイト』（83年）など。

監督の芹川有吾さんとは、テレビスペシャルの『若草物語』（80年）で組んだのが最初でした。以来、気に入られたみたいで。相性が良かったのかな。『鬼太郎』ではまた組んで出来るというので喜んでくれていたようです。

劇場1作目のときとは違い、この作品ではデザインも僕が担当しました。敵の中国妖怪とか、ユメコちゃんの浴衣姿とか。僕は、ポケ〜ッとのんびり寝ているような、アクション派じゃない鬼太郎が好きなんです。最初の『墓場の鬼太郎』の表紙がそういうものだったからね。だからこの映画では、少し落ち着いた鬼太郎になっていると思う。作監補には、同じカーペンターの河野（宏之）くんがついてくれました。自分で修正したくない絵は全部、河野君に回していたな。ユメコちゃんがどうこうみたいなのは僕がやって、火の玉が回転するとか面倒なやつは「お前やれ」って。ひどいね（笑）。

ラストの盆踊りのシーンは、稲野（義信）くんが描いていました。夜店の風景や、ねずみ男がひっくり返るところもすべて稲野くんだね。宇田川（一彦）さんは妖神が飛び立つあたりを描いていた記憶があるけど、着物のシーンなど、アクションよりも芝居を見せるところが多かったと思う。

この映画でもそうだけど、芹川さんは女の子が出てくると、生き生きしてやっていた感じがする。あと、作画のタイミングにはとてもこだわる人でした。絵コンテでは、最初のほうで鬼太郎がお墓に座るカットがあったんです。僕が「お墓に座るのはまずいんじゃないですか？」って言って、そこは隣りの切り株に座ることにしました。芹川さんの絵コンテでは、主人公があまり座らないところに腰掛けることがあってね。『若草物語』でも枕に直接座っちゃったり（笑）。妙な思い出がありますね。

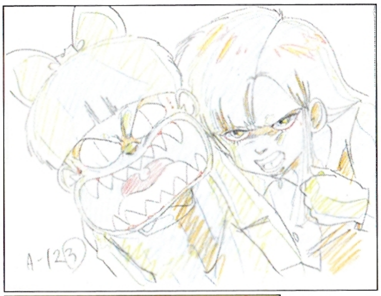
初号が上がった後、芹川さんが後悔していたのは、チーが描いた紙の龍が空を飛んでいるのを鬼太郎が松明で燃やすところ。あそこは松明のどアップを入れるべきだったと。つまり、松明が龍の鱗をビーッと切り裂いていくような、ナメのカットがあれば良かったな、と仰っていましたね。

（２００７年　５月）

ゲゲゲの鬼太郎 原画ギャラリー

劇場版『激突‼異次元妖怪の大反乱』の制作当時、アニメーターたちによって描かれた貴重な原画をご紹介。生き生きとした筆触をご堪能あれ。

●ねずみ男を怒るユメコとネコ娘 (シーン21 カット4)





新岡さんによるノリノリの原画。

黄色い紙は入好氏による修正原画

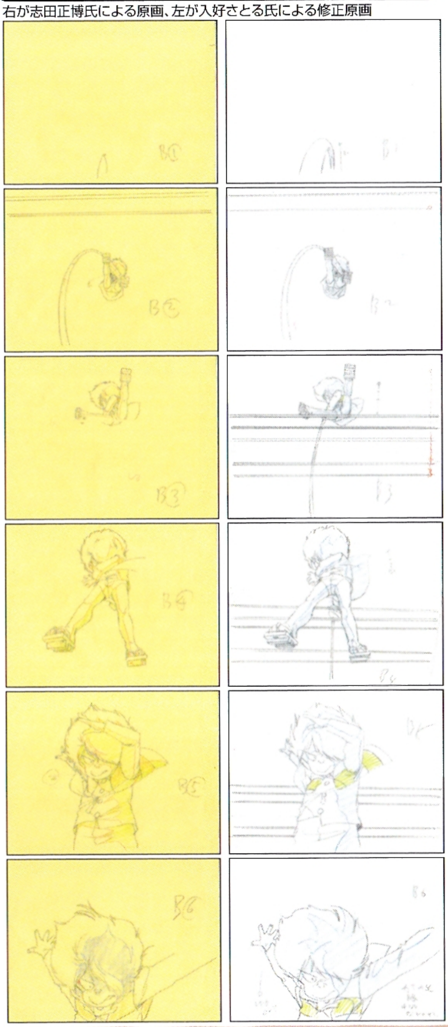
●ねずみ男に倒される一本だたら (シーン58 カット5)

新岡さんによる修正原画。
勢いのある描線を奨励した書き込みにも注目

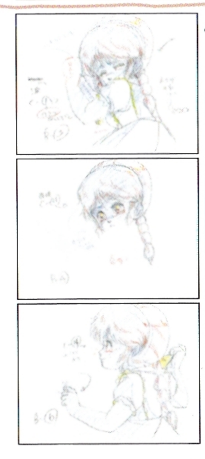


●妖怪棒高跳び (シーン15 カット25)

右が志田正博氏による原画、左が入好さとる氏による修正原画

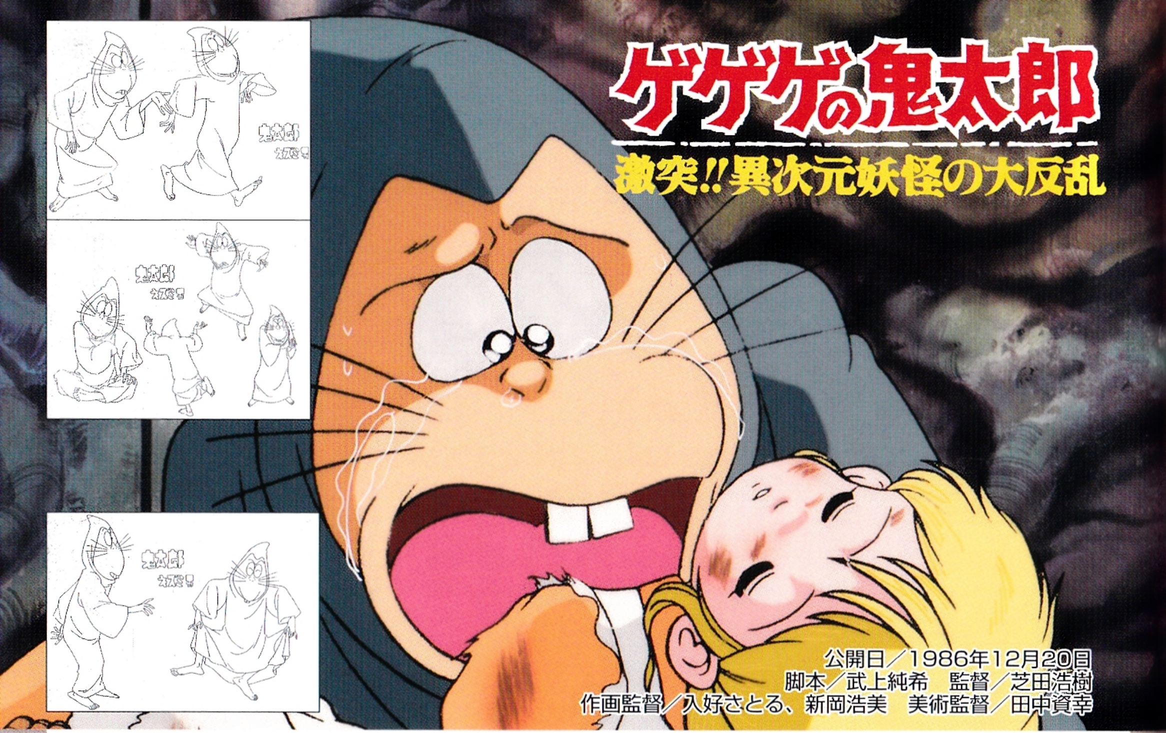


●ドアの前のカロリーヌちゃん (シーン49 カット1)



新岡浩美さんによる原画。
実際の作品では、これに入好氏の修正が加えられた





ゲゲゲの鬼太郎

激突!!異次元妖怪の大反乱

公開日／1986年12月20日
脚本／武上純希　監督／芝田浩樹
作画監督／入好さとる、新岡浩美　美術監督／田中資幸

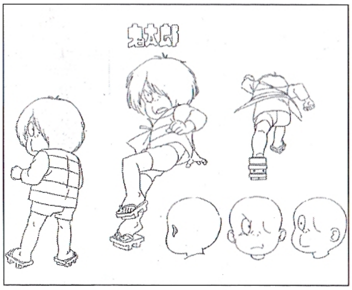
あらすじ

東京を怪気象が襲った。妖怪帝国を作ろうとする妖怪皇帝の仕業だ。その最中、ねずみ男はカロリーヌという美少女と出会い、心を通わせるが、彼女は皇帝の放った妖怪軍に連れ去られてしまう。救出に向かったねずみ男は彼女が皇帝配下のぐわごぜの娘である事実を知った。本当は優しい父親を助けてほしいと願いながら、カロリーヌは朧車に殺された。怒りに燃えるねずみ男が窮地の鬼太郎を救い、鬼太郎の活躍で皇帝＝ぬらりひょんは倒された。



原作及び脚本

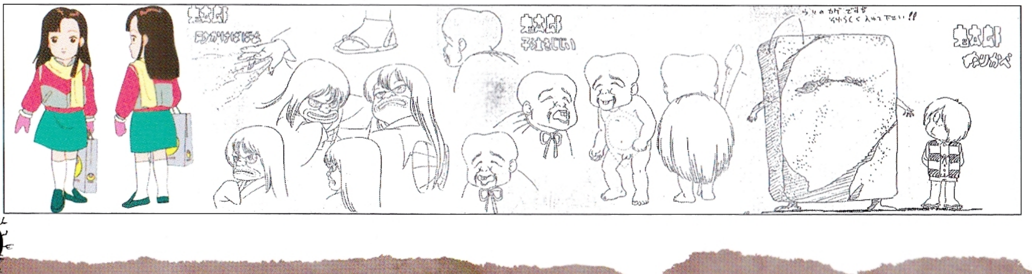
『週刊少年マガジン』68年10月6日～10月27日（第41～44）号掲載の「朧車」が原作で、脚本カバーにも〝—朧車—より〟とある。脚本では、ねずみ男に叱咤激励されたぐわごぜが、カロリーヌの復讐を果たすべく妖怪たちを先導して妖気発生定着装置を破壊。死なずに終わり、ねずみ男の墓参りシーンは映像のみ。




61年冬「まんが祭り」劇場用

ゲゲゲの鬼太郎

「激突!! 異次元妖怪の大反乱」
—朧車—より



ゲゲゲの妖怪図鑑 其之肆

妖怪皇帝



ぐわごぜらを配下において妖怪帝国を組織。怪気象によって東京を占拠し、日本を支配しようともくろんだ。その正体はぬらりひょん。占拠した国会議事堂上で鬼太郎と一騎討ちになり、鉄仮面を割られて正体を暴かれ、同時に顔に傷を受けて議事堂上から墜落。例によって生死不明となる。

ぐわごぜ



妖怪皇帝の配下で妖怪帝国の総理大臣。娘のカロリーヌを鬼太郎を倒すために利用した。しかし、カロリーヌの死に対して非情な妖怪皇帝の態度に怒り、己の過ちに気付く。そして国会議事堂上で鬼太郎と戦う皇帝の足を掴んで妨害したため、その刃を受けて落下した。

カロリーヌ



ぐわごぜのひとり娘。父親に利用されているとは知らずに鬼太郎たちに接近。ねずみ男と仲良くなり、朧車に襲われたねずみ男をかばって非業の死を遂げた。

朧車



怪気象を発生させている妖怪。目からあらゆる物質を固める光線を出す。鬼太郎にちゃんちゃんこで目隠しされ、オカリナロープで車を壊された後、オカリナ剣で叩きのめされると元の姿＝蜃気楼を出す巨大蛤になって果てた。

あやかし



妖怪皇帝に操られる鰻のような巨大妖怪魚。体中が油だらけ。長い体を武器に気象観測船、はるかぜを沈め、本土に上陸して暴れた。妖怪棒高跳びで宙に舞い上がった鬼太郎を追いかけて高圧線をくわえてしまい、体皮の油が炎上して絶命(?)。

白溶裔(しろうねり)



白い竜のような巨大妖怪。ねずみ男よりも強烈な悪臭を吐く。その長い体でカロリーヌを巻き付けて連れ去った。その後、国会議事堂での戦いで、鬼太郎のオカリナ剣でバラバラに切り刻まれた。

一本だたら



警察も妖怪皇帝の支配下になったと言って警官姿で水木邸に現れ、鬼太郎を捕らえようとした。白溶裔がカロリーヌをさらったのを見届けて逃走。その後の消息は不明である。

鬼女



蛇骨ばばぁ同様、妖怪皇帝の参謀格として働いていた。やはりのづち砲に飲み込まれたものと思われる。

蛇骨ばばぁ



ぐわごぜと共に出現。妖怪皇帝の参謀格として働き、国会議事堂占拠後は妖怪皇帝の側近として活躍。のづち砲に飲み込まれたものと思われる。

すねこすり



怪気象を作り出す朧車のいる地下室の門番。妖怪たちの出入りに合わせて扉を開閉させていた。ねずみ男に蹴られた後の消息は不明。

土ぐも

あやかしとほぼ同時に本土に上陸。地下鉄構内でねずみ男、ユメコらを襲った。その後国会議事堂前でのづち砲に飲み込まれた。

妖怪戦車





妖怪世界きっての博識な妖怪、夜行さんが操縦する。つるべ火、化け火、輪入道、のづちを合体させて誕生。がしゃどくろらを一掃した。

妖怪帝国の妖怪たち

火車、山童、小豆とぎ、化けぞうり、がしゃどくろなど妖怪皇帝配下の妖怪たちは国会議事堂に集結していたようだが、妖怪戦車に一掃されたものと思われる。その他、画面からは皇帝の専用飛行艇となっていた辻神なども確認できる。



水木しげる先生（声／あずさ欣平）



妖怪の存在を信じ、妖怪の漫画を描き続けてきた漫画家。鬼太郎たちに協力した。

水木夫人（声／川浪葉子）



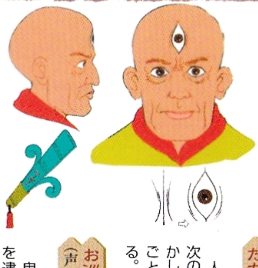
夫に従い、鬼太郎をかくまうのに協力した。

お天気お姉さん（声／川浪葉子）



台風情報をテレビで伝えた。

高僧チンポ（声／大森章督）



霊力の高い三つ目の僧侶で、総理大臣に頼まれて額の目で台風＝怪気象を見通した。

総理大臣（声／宮内幸平） 防衛庁長官（声／郷里大輔）

怪気象出現を自分たちの最高の見せ場と、対策に嬉々として乗り出すが……。

自衛隊指揮官（声／屋良有作）

怪気象に対しミサイル発射を総理に提案。その発射ボタンを押した。

気象観測船はるかぜ船長（声／郷里大輔）

台風かと思われていた怪気象に突入したため、船を沈没させられてしまう。

気象観測船はるかぜの船員たち

人魚を見た次の瞬間、あやかしによって船ごと沈められる。

お巡りさん（声／大竹宏）

鬼太郎たちを逮捕しようとして町中で発砲した。

何か運命的なものを感じて、すごく嬉しかったのを憶えています

芝田浩樹インタビュー

しばた・ひろき
『ゲゲゲの鬼太郎　激突!!異次元妖怪の大反乱』監督



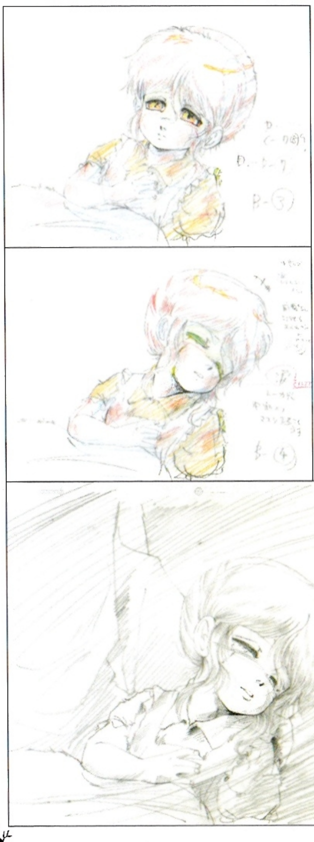
PROFILE　1960年5月7日生。石川県出身。'81年4月、東映動画に入社。『ゲゲゲの鬼太郎[第3作]』ではシリーズディレクター補佐を担当。代表作は他に『ひみつのアッコちゃん[第2期]』（SD／88年）『ボボボーボ・ボーボボ』（SD／03年）など。

僕はそれまでに一度、『Dr.スランプ　アラレちゃん　ほよよ！ナナバ城の秘宝』（84年）という劇場作品を経験したことがあったんですが、これは異例中の異例でして（笑）。監督をやれるステイタスという点では、まだまだ若僧だったんです。『鬼太郎』にはベテランの演出家が揃っていたので、それらの方が順番に劇場版を担当された後、そろそろ若手にいってもいいかな、というところで僕に声がかかった……そんな感じだと思います。練習として、ひとつの前の『最強妖怪軍団！日本上陸!!』で芹川（有吾）さんの助監督につきました。そこで劇場のシステムを学んでから、〝いよいよ〟ということで『異次元妖怪の大反乱』をやらせてもらったんです。

横山さんからは、最初に「今度は泣かせるやつ作ろう！」って言われましたね。「あ、まさに僕のやりたかったことだ」と思い、しっくり来たというか。何か運命的なものを感じて、すごく嬉しかったのを憶えています。そのこともあって、この映画は前3作とは随分雰囲気の違った仕上がりになっていると思うんですよ。

アニメの劇場用って、どうしても〝スペクタクルな画面を作ろう〟という傾向があるものだから、最後は戦いの場所が崩壊したりする展開が多いんです。この作品でも、シナリオ段階では確か、相手の妖怪を倒すときに国会議事堂の地下が崩壊することになっていたんですよ。自分としては〝あ、またか〟と（笑）。それと僕自身、アニメをやってる割にはアクションとか、派手なシーンが得意じゃないところがありまして……。どちらかというと、心情的な部分に気持ちがいっちゃうタイプなので、コンテを描くとき、戦いのクライマックスは軽く流してしまい、その分、ねずみ男とカロリーヌちゃんのシーンのタイムを増やしたりしたわけなんです。今思うと、鬼太郎のアクションがあっけない感じだったかな、という反省はありますね。

作監の入好さとるさんとは、テレビの『鬼太郎』の第2話「鏡爺」で原画を描いてもらって以来、お互いの気心が知れていたので、非常にやりやすかったです。カロリーヌちゃんは観客の共感をよぶため入好さんが、原作よりも愛らしくデザインしてくれて、演技の方は作監補の新岡浩美さんがチェックしてくれました。当時、彼らはスタジオジャイアンツの所属だったんですけど、コミュニケーションを取りながら一緒に作業をしたかったので、製作担当にお願いして東映動画のなかに席を作ってもらいました。ちなみに、二人はそこで仕事するうちに仲良くなり、ついには夫婦になっちゃったと（笑）。もちろん、その前から付き合っていたとは思うんですけど、結婚するに至る直接のきっかけはこの『異次元妖怪』のはずです。



新岡浩美さんの原画より。カロリーヌちゃんが亡くなるシーン

カロリーヌちゃんの声を、本当の子どもに演じてほしい、と希望したのは僕です。中学生ぐらいのときに『大草原の小さな家』が大好きでずっと観ていたんですけど、子役がちゃんと子どもの声をアテているのがとても自然に感じたんですね。それで横山さんを通じて、青二プロのマネージャーの方にお願いをしました。藤枝成子ちゃんというのはグループこまどりにいた女の子で、当時は確か11歳でした。アフレコのときは、僕が横にひざまづいて、「こんな感じだよ」とか説明しながらやったんです。子どもが来たので、みんな〝ぽわ～ん〟という感じになって。ぬりかべの屋良（有作）さんなんか、マイクのところに行って「ぬりかべ～～」って言った後、「おじさん、これだけなんだよぉ」って去って行ったりとか。アフレコ現場が何か面白い雰囲気でしたね（笑）。

カロリーヌちゃんが光になって昇天するところは、作画的にもすごく感じが出たと思っています。新岡さんの原画だったんですが、ものすごく枚数入れてもらって。気持ちよく動いていましたね。自分では、感動とクサイのとの紙一重のところかなあ、という懸念はありましたけど、温かい、何か心に残るものを作りたいな、という思いで力を入れたシーンでした。

（2007年　6月）

ゲゲゲの鬼太郎　激突!!　異次元妖怪の大反乱

映倫ＮＯ／25147号
初　　号／1986(昭和61)年12月3日
封　　切／1986(昭和61)年12月20日
上映時間／47分48秒７Ｋ
作画枚数／11,808枚

〈オープニングクレジット〉

■■製作総指揮／今田智憲■企画／横山賢二■原作／水木しげる　{コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち、週刊少年マガジン}　連載■脚本／武上純希■音楽／川崎真弘（ＦＲＯＭ 竜童組）■主題歌「ゲゲゲの鬼太郎」　作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　編曲／野村　豊　うた／吉　幾　三　「おばけがイクゾ〰」　作詞／吉　幾　三　作曲／吉　幾　三　編曲／野 村　豊　うた／吉　幾　三（徳間ジャパン）■撮影監督／町田賢樹■編集／清水慎治■録音／蔵本貞司■美術監督／田中資幸■作画監督／入好さとる、新岡浩美■製作担当／松下健吉■監督／芝田浩樹

〈エンディングクレジット〉

■声の出演／鬼　太　郎（戸田恵子）、、目　　玉（田の中　勇）、、ねずみ男（富山　敬）、、子泣きじじい（永井一郎）、一反もめん（八奈見乗児）、ぬりかべ（屋良有作）、砂かけばばあ（江森浩子）、ネ　コ　娘（三田ゆう子）、ユ　メ　コ（色川京子）、、妖怪皇帝（青野　武）、ぐわごぜ（千葉耕市）、鬼　　女（鈴木れい子）、蛇骨ばばあ（山本圭子）、夜行さん（大竹　宏）、朧　　車（佐藤正治）、一本だたら（広中雅志）、火　車（平野正人）、、水木　先生（あずさ欣平）、水木　夫人（川浪葉子）、総理　大臣（宮内幸平）、防衛　長官（郷里大輔）、高僧チンポ（大森章督）、カロリーヌ（藤枝成子）　協力／青二プロダクション■原画／深沢幸二、金津賀　博、岸田隆宏、関野まさひろ、渡辺邦男、伊藤修一■動画／大森久美子、打道良二、岩井頼義、上野阿津子、大島孝美、臼井研二、清水明美、中村幸子、鈴木信一、佐藤正樹■動画チェッカー／坂野隆雄、服部照夫■背景／須田栄子、佐貫利勝■仕上／松下久美子、高橋真由美、三ツ木清恵、神谷ジョウ、米山ひとみ、菅野保子、渋谷正子、新井ますみ■検査／坂本陽子■特殊効果／中島正之■撮影　チーフ／片山幸男　池田重好、相磯嘉雄、清水政夫、細田民男、高梨洋一、武井利晴、福井政利、坂西　勝、今村昌史、高橋　基■音響効果／今野康之■選曲／田中英行■ネガ編集／岡田　泉■録音助手／山田　仁■仕上進行／小堺　浩■美術進行／杉本隆一■助監督／有間二郎■製作進行／中村　悟■記録／竹澤裕美子■録音スタジオ／タバック■現像／東映化学

アニメーターになりたての頃の思い出深い作品です
入好さとるインタビュー



いりよし・さとる
『ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争』原画
『ゲゲゲの鬼太郎 激突!!異次元妖怪の大反乱』作画監督

PROFILE　1958年9月15日生。大分県出身。スタジオジャイアンツを経てフリー。キャラデザ、作監を務めた代表作は「きんぎょ注意報!」（91年）『ヘリタコぷーちゃん』（98年）など。

劇場版の参加は『妖怪大戦争』に続き、この『異次元妖怪の大反乱』が2本目となります。アニメーターになりたての頃の思い出深い作品です。最初はジャイアンツにグロス出しということで、僕の作監ということで話がきたんですが、僕はまだアニメーターになって日も浅かったので、一度断って、同じスタジオにいた志田（正博）くんを推薦しました。彼はとにかく天才的に絵が上手かったから。ところが志田くんは「嫌だ」と言う。普段、自分が作監をやってない作品の、劇場版だけ作監をするのは気が進まなかったのでしょう。それで結局、僕が作監をやらせて頂きました。

志田くんは原画で参加してくれました。鬼太郎が妖怪棒高跳びをしてあやかしを倒すシーンは彼の担当ですね。ユメコちゃんのパンツが見えていたので、何だかまずいんじゃないかと思って僕が直した記憶があります（笑）。

ジャイアンツでは他に深沢（幸司）くんも原画を描いています。彼は、妖怪戦車が出て来るシーンをやってくれました。当時、芝田監督に〝優作〟くんという長男が誕生したんですね。修正のとき、その名前が入った看板が一緒にのづちに吸い込まれる、なんてイタズラもしましたが、殆ど見えませんでした（笑）。

（2007年5月）



本作の絵コンテ。
当時、東映動画社員だった今泉基（現・ゴッホ今泉）氏の筆によるもの。超!レアだ

カロリーヌちゃんが出てくるシーンの原画は殆ど描きました
新岡浩美インタビュー



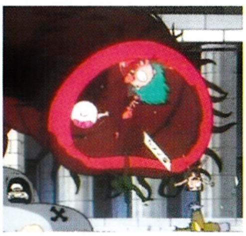
にいおか・ひろみ
『ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争』原画
『ゲゲゲの鬼太郎 激突!!異次元妖怪の大反乱』作画監督
『ゲゲゲの鬼太郎 大海獣』原画

PROFILE　1963年2月9日生。北海道出身。スタジオジャイアンツを経て、現在はフリーでマッドハウス作品を中心に原画・作監補などを務める。原画担当作品は『METROPOLIS』（01年）など。

『異次元妖怪の大反乱』は、当初は原画として参加したんです。私の担当はカロリーヌちゃんで、彼女が出てくるシーンの原画は殆ど描きました。水木先生の家や、最後の死ぬところ、涙の原画もそうですね。あれは、芝田さんが透過光で光らせる指定を入れたんです。画面になったのを観たら、すごく光っていたので驚きました（笑）。後半は、入好さんの手が回らなくなったので、私も作監を手伝うことになりました。主に妖怪の出るシーンを分担しましたね。

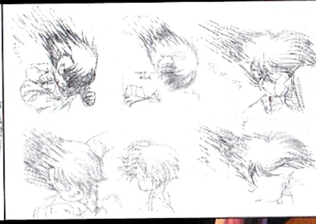
〝ゆうさく〟くんの看板を修正のときに描き足したのは、実は私です（笑）。

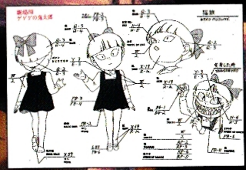
（2007年5月）

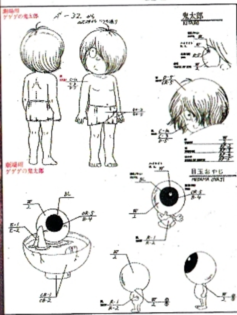

問題の“ゆうさく”カット。
コマ送りして確認しよう!

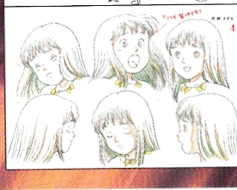












ゲゲゲの鬼太郎(きたろう) 大(だい)海(かい)獣(じゅう)

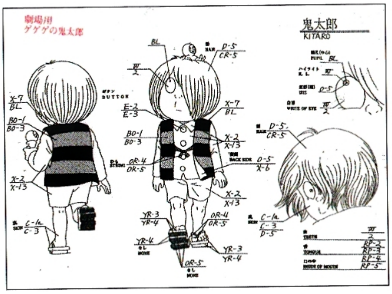
公開日／1996年7月6日
脚本／星山博之　監督／勝間田具治
作画監督／荒木伸吾、姫野美智
美術設定／角田紘一　美術監督／東 潤一

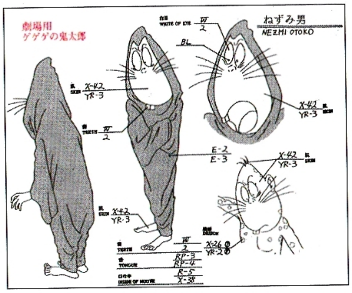
あらすじ

鬼太郎は少女・メグミの頼みで、彼女の父親を捜すべくバルル島へ渡る。現地では、不老不死の水の噂を聞いた日本人たちが押し寄せ、南方妖怪のアカマタらが困っていた。アカマタは鬼太郎を捕獲、大海獣に変えると日本へ警告に向かわせた。ねずみ男から大海獣の正体が鬼太郎であることを聞いた目玉おやじは、井戸仙人から聞いた秘法で鬼太郎を元の姿に戻した。鬼太郎は襲い来る南方妖怪軍団を撃退。友好を約束し、彼らを許すのだった。

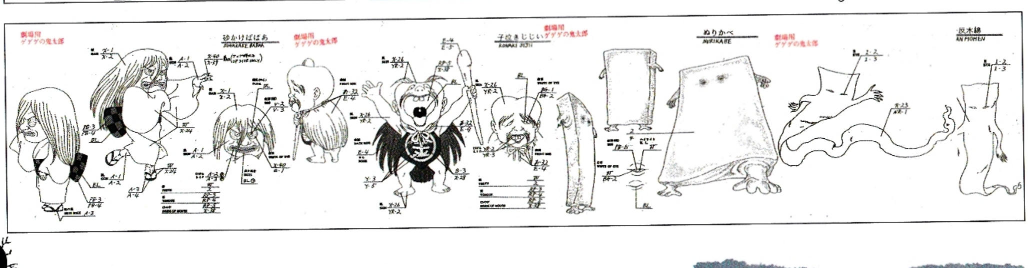
原作及び脚本

原作は『週刊少年マガジン』66年5月15日～7月2日（第20～26）号掲載の「大海獣」に先の「妖怪軍団」をミックス。脚本では、オープニングはメグミからの手紙を読み終えたところで挿入するよう指示が入っていた。また、鬼太郎が大海獣に変身する際の、手の皮がズルッと剥ける描写は脚本には存在しない。



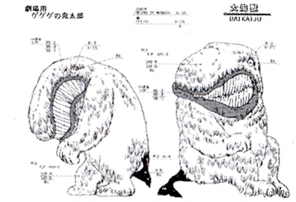






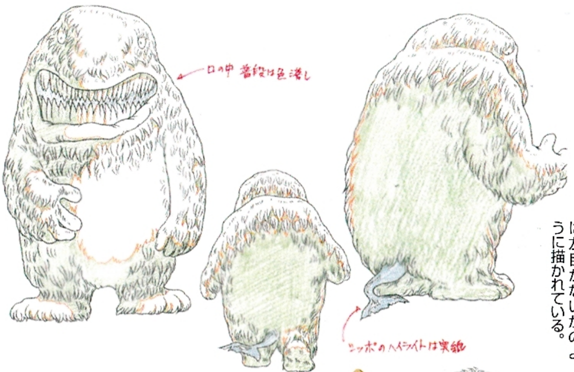
ゲゲゲの妖怪図鑑 其之伍

大海獣



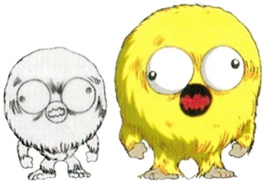
3億年前に生息したクジラの祖先といわれる。学名・ゼオクロノドン。南方妖怪たちが神と崇拝し、泉に死骸だけが存在。復活させるためには世界中の妖怪の妖力を必要としたため、その泉の"生命の水"を鬼太郎に飲ませて変身させ、警告のため日本へ放った。口から何でも毛だらけにしてしまう光線を照射。ココの実と薬草を煎じた薬で元の鬼太郎に戻った。

ご覧の通り設定画では原作同様、両目が存在するが、本編中では左目がないかのように描かれている。





キジムナー



群れをなして棲息。口から火炎を吐き、飛行能力もある。アカマタ、やし落としの移動も援助。最後は共に島に帰って行った。

やし落とし



南方妖怪のひとりで、頭に生えたヤシの木から、ヤシの実を飛ばして相手にぶつける。鬼太郎と和解し島へ帰って行った。

チンポ



南方妖怪のひとり。飛行能力があり、股間から銃弾のようなものを発射。その股間が弱点でもある。アカマタらと島に帰った。

アカマタ



南太平洋、バルル島に棲む南方妖怪たちのリーダー格。口から唾液を飛ばして固め、相手の精気を吸い取る。最後は鬼太郎と和解した。

井戸仙人



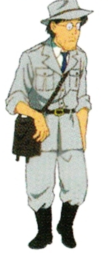
山深い森の中にある古井戸に棲む。寝てばかりいるが博識で、鬼太郎を元の姿に戻す方法を目玉おやじに教えた。

メグミ
（声／中山真奈美）



バルル島に渡った父親が行方不明となり、鬼太郎に捜索を依頼した少女。

川村
（声／島田 敏）



メグミの父親。バルル島で欲深い人間たちに警告して回っていたが、同じ穴のムジナと誤解され南方妖怪に捕らわれていた。

メグミのママ



機長



村の長老
（声／嶋 俊介）



バルル島の村の長老。やって来た鬼太郎に不老不死の水や川村のことを説明した。

村の男



統制官

テレビレポーター



大海獣が古代生物、鯨の祖先ゼオクロノドンではないかと伝えた。

つり客



村の女



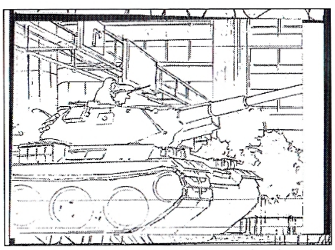
課長（声／田中亮一）
社員A（声／風間信彦）
社員B（声／里内信夫）

どこかの企業の一団。不老不死の水を手に入れようと、ねずみ男をガイドにバルル島を訪れた。

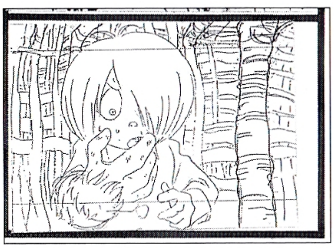
ゲゲゲの鬼太郎 大海獣 シーン別 原画担当アニメーター一覧

劇場版『鬼太郎』は、実力派アニメーターたちの競演も見どころのひとつだ。ここでは『大海獣』における原画マンたちの担当範囲を、シーン&カット順に整理してご紹介する。

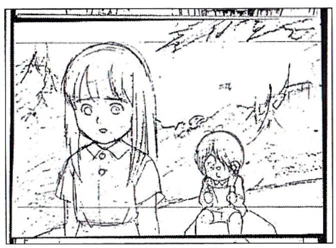
シーン	カット	原画担当者	内容
1	1～9	木下和栄	ゲゲゲの森全景から、島民と鬼太郎の会話「村の掟を破って山に入った日本人は、みんな行方が」まで
2	1～13		
3	1～6		
	7	荒木プロ	驚いて後ずさりする水木しげる風の男
	7A～34	木下和栄	逃げ去る男の後ろ姿から、お札を引き抜かれる大蛇のUPまで
4	1～13		
5	1～29	堀川留子	一反木綿で飛ぶ鬼太郎の俯瞰ロングショットから、下駄を飛ばす鬼太郎まで
	30～77	阿部 隆	キジムナーに命中する下駄から、目玉を乗せて飛び去る一反木綿のロングショットまで
6	1～7		
7	1～2	星川信芳	道に迷ったねずみ男から、立ち上がるチンポ、アカマタ、やし落としたちの「オー！」まで
8	1～13		
9	1A～24		
10	1～10		
11	1～55	細田 守	伊豆沖の俯瞰ロングショットから、やし落としの「しばらくは高みの見物といくか」まで
12	1～17	増田信博	羽田空港の俯瞰から、ブリッジに迫る大海獣まで
13	1～2	岩崎由美子	へたり込む子泣き爺から、目玉「あれじゃ！」まで
	3	BANK	ブルドーザーのキャタピラ
	4～9	岩崎由美子	ゴルフ場全景から、大海獣出現を知らせる猫娘まで
14	1～32	青山 充	驚く車内のカップルから、長官「やむを得ん、砲撃を開始しよう」まで
15	2～4		
16	1～6	山下高明	戦車の出撃から、光線を発射する大海獣まで
	7～8	増田信博	光線を受けて毛が生える兵士と砲台
	9	山下高明	驚く鬼太郎大海獣「……僕がやっているのか」まで
	10～12	増田信博	歩き出す大海獣から、ふり返る大海獣まで
	13～21	山下高明	街の俯瞰から、ビルを壊しつつ逃げ出す大海獣まで
	22～24	増田信博	東京タワーをかすめる大海獣から、コンビナートをナメて歩く大海獣まで
	25～26	山下高明	海に飛び込む大海獣から、渦巻く海面まで



▲後に劇場版「デジモン」でも大活躍する山下高明氏は、夜の市街戦シーンを担当。図は16シーン1カット。緻密な兵器描写や着弾のエフェクトが秀逸。



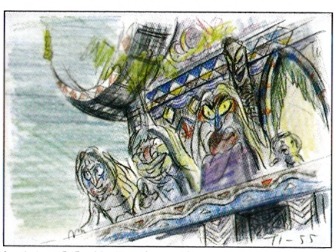
▲細田守氏は鬼太郎が大海獣に変身する衝撃のシークェンスを担当。図は11シーン45カット。氏にとって、本作がアニメーター時代最後の仕事となった。



▲テレビ版の作監でもある木下和栄さんは、物語の序盤を担当。図は2シーン5カットのレイアウト。メグミがキャラ決定前のデザインで描かれている。

シーン	カット	原画担当者	内　容
17	1～11	増田信博	飛来する戦闘機から、大海獣を囲む鯨群の俯瞰まで
18	1～4	松本 清	国会議事堂周辺のロングショットから、小島につかまる大海獣「こんな姿だけど、僕だってことを」まで
19	3～13		
20	1～5		
21	1～4	岩崎由美子	日の出山中全景から、猫娘「助けに行くからね」まで
22	1～5	嶋川竜太郎	岩に座る大海獣から、砂浜に落下する砂かけ婆たちまで
23	1～12		
	13～30	メルヘン社	海中から現れる大海獣から、アカマタの気体を浴びて金縛りにあう人々まで
	31～36	永富美智子	大海獣「やめろ」から、見送る大海獣「父さん」まで
24	1	荒木プロ	目玉「無事でいてくれよ、鬼太郎！」
	2～10	永富美智子	一反木綿「あら、親父どの」から、目玉「よし」まで
25	1～15B	荒木プロ	戻ってくる一反木綿の俯瞰から、裸の鬼太郎と目玉「チャンチャンコと下駄を取り戻すんじゃ！」まで
26	1～3		
27	1～5		
28	1～3		
29	1～4		
30	1～8		
31	1～24		
32	1～20	増田信博	軍団船全景から、船窓越しに振り向く鬼太郎まで
	21～24	なかじまちゅうじ	帰還するアカマタたちから、隠れるねずみ男まで
	24A	荒木プロ	ねずみ男のUP「戻ってきやがった！」
	25～40	なかじまちゅうじ	やし落とし「くらえ！」から、苦しむチンポまで
	41～59	的場茂夫	アカマタ「よし行け」から、屋根に降りる2人まで
	60	荒木プロ	スクッと立つ鬼太郎
	61	的場茂夫	アカマタ「フフフ、今度こそは！」と気体吐く
	62～69	荒木プロ	気体を受ける鬼太郎から、アカマタ「入らない」まで
	70	新岡浩美	髪針の構えに入る鬼太郎「とどめだ！」
	70I､70R	荒木プロ	アカマタ「ま、待ってくれ、俺の負けだ」
	71～75	新岡浩美	周囲を見回す鬼太郎から、考える鬼太郎まで
	76I､76N 76R	BANK	海中に集まってくる鯨の群れから、鯨たちが大海獣を助け上げるまで
	77～91	新岡浩美	鬼太郎「アカマタ」から、軍団船の周囲を泳ぐ鯨まで
33	1～2	荒木プロ	金縛りから解放される人々
34	1～10	黒沢 守	上空の鬼太郎たちから、船上のアカマタたちまで
35	2～6	荒木プロ	鬼太郎に礼を言うメグミから、目玉に微笑む鬼太郎まで
36	1～4		







上図は、本作の絵コンテ作業と並行して角田紘一氏が描いたイメージボード。その多くは絵コンテの要所要所に採用され、ラフレイアウトとしての役割を担った

『大海獣』は、荒木プロの作画システムが徹底できずに苦労した作品でした

荒木伸吾インタビュー



あらき・しんご
『ゲゲゲの鬼太郎 大海獣』キャラクターデザイン、作画監督
『ゲゲゲの鬼太郎 妖怪特急!まぼろしの汽車』キャラクターデザイン、作画監督

PROFILE 1939年1月1日生。愛知県出身。虫プロダクション、ジャガードなどを経て'74年、荒木プロを設立。キャラデザ、作監を務めた代表作は『バビル2世』(73年)『聖闘士星矢』(86年)など。

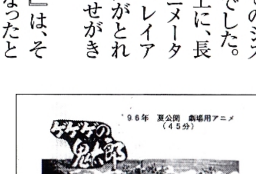
『鬼太郎』という作品にはもともと興味がありました。アニメ的にいろんなことができそうな題材だと思っていたんですね。だからこの話が来たときは、内心、非常に嬉しかったんです。やっと『鬼太郎』が描ける！という気持ちでね。キャラデザインにあたっては、できるだけ水木さんの雰囲気を大事にしようと思いました。無理矢理、自分たちの特徴を出そうという気持ちは一切なかったですね。素直にキャラクターを作ればいいと。

シリーズの初期……各話作監が1周半するくらいまでは総作監を務めました。他のスタジオではまず、レイアウトや原画が上がってから、作監がその絵を修正しますよね。荒木プロの場合は違っていてね。先に私が全カットにわたってラフなレイアウトを描き、動きの方向づけをするんです。作監や原画マンはそのラフをクリンナップしながら、具体的な原画を描き起こしていく。初めに私が手を入れるという意味では、普通と逆の順番なんですね。どちらのやり方がいいかは判らないですが、自分の意志を作品全体に反映させるためには、レイアウトを先行させる方法は有効だと思うんですよ。

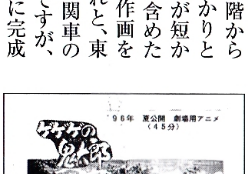
ただ、劇場版の『大海獣』は、そのシステムが徹底できずに苦労した作品でした。スケジュールがかなり厳しかった上に、長編ということで荒木プロ以外のアニメーターも多数参加していたからです。レイアウト段階からカチッと攻める方法がとれないと、作業の終わり頃にしわ寄せがきてしまうんですね。

それに対して『まぼろしの汽車』は、それなりに満足のいく仕上がりになったと思います。こちらは、レイアウト段階からカットのつながりを考えつつ、しっかりとチェックすることができました。尺が短かったこともあり、うちのスタッフを含めた比較的少数のアニメーターだけで作画をカバーしたのもよかったです。それと、東映アニメの的場(茂夫)さんには機関車のカットを全面的に描いて頂いたのですが、あの方の力が加わったお陰で非常に完成度の高い画面になりましたね。

(2007年5月)



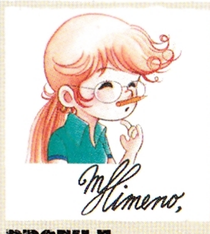
本作の絵コンテより。水木しげるなムードたっぷりの表紙だ



絵コンテ分冊、2巻目の表紙。基本的な意匠は変わらない

『大海獣』はせっせと線を入れたけど、多過ぎて苦労しました

姫野美智インタビュー



ひめの・みち
『ゲゲゲの鬼太郎 大海獣』キャラクターデザイン、作画監督
『ゲゲゲの鬼太郎 妖怪特急!まぼろしの汽車』キャラクターデザイン、作画監督

PROFILE 8月16日生。兵庫県出身。'75年、荒木プロに入社。キャラデザ、作監を務めた代表作は『ベルサイユのばら』(79年)、映画『聖闘士星矢 天界編 序奏～overture～』(04年)

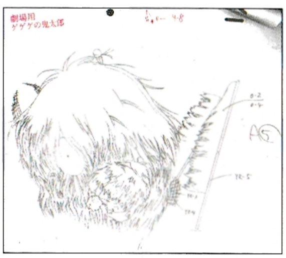
『鬼太郎』のメインキャラデザインは、基本的にすべて荒木さんがラフを描き、私はその線を整理する、という分担をしました。決定稿までにデザインが変化したことで記憶にあるのは、ぬりかべですね。最初はエッジのないボロボロとした壁だったんですが、最終的に角のある高野豆腐のような感じにしたんです。

鬼太郎のデザインは一度決定稿が出た後、色々と部分修正を繰り返しました。こうすればもっと可愛くなるだろう、と顔のバランスや毛先の描き方を変えてみたり。ちゃんちゃんこの処理も、祖先の霊毛らしく毛皮っぽさを強調したりとか。

実際の作画においても、時間がある限り、荒木さんはレイアウトとラフ原を描いていました。デザインのときと同様、私はそのラフの線をまとめたり、原画を足したりして、動画の人がクリンナップしやすい状態にまで持っていく作業をしました。描きやすかったのは一反木綿かな(笑)。ぬりかべも楽だったけど、点々がちょっと面倒でした。

劇場版『大海獣』で記憶に残っているのは〝線を入れ過ぎて失敗〟ということですかね(笑)。あんまりツルンとすると、せっかく水木さんの原作があるのに意味がないんじゃないかと。せっせと線を入れたけど、多過ぎて苦労しました。

(2007年5月)



本作の色指定より。姫野さんのご苦労が忍ばれる

ゲゲゲの　鬼太郎　大海獣

映倫NO／26270号
初　号／1996(平成8)年6月28日
封　切／1996(平成8)年7月6日
上映時間／49分52秒16K
作画枚数／14,278枚

〈オープニングクレジット〉

■■製作／高岩　淡、泊　懋■企画／清水慎治■原作／水木しげる　コミックボンボン、テレビマガジン、たのしい幼稚園、おともだち 連載(講談社)■脚本／星山博之■音楽／和田　薫■主題歌　オープニング「ゲゲゲの鬼太郎」 作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　唄・編曲／憂　歌　団　エンディング「カランコロンのうた」 作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　唄・編曲／憂　歌　団 (wea japan)■製作担当／高梨洋一■撮影／細田民男■編集／花井正明■録音／市川　修■美術設定／角田紘一■美術監督／東　潤一■キャラクターデザイン、作画監督／荒木伸吾、姫野美智■監督／勝間田具治

〈エンディングクレジット〉

■声の出演／鬼　太　郎(松岡洋子)、目玉おやじ(田の中　勇)、ねずみ男(千葉繁)、砂かけ婆(山本圭子)、ね　こ　娘(西村ちなみ)、子なき爺(塩屋浩三)、一反木綿(龍田直樹)、アカマタ(古谷　徹)、チンポ(古川登志夫)、やし落とし(郷里大輔)、キジムナー(佐藤正治)、川　村(島田敏)、メ グ ミ(中山真奈美)、長　老(嶋　俊介)、、村　人　A(増谷康紀)、村　人　B(西川宏美)、ヤクザの男(江川央生)、課　長(田中亮一)、社　員　A(風間信彦)、社　員　B(里内信夫)、船　長(増田均)、、井戸仙人(八奈見乗児)　協力／青二プロダクション■作監補佐／茅野京子、角田紘一、阿部　隆■原画／木下和栄、細田　守、星川信芳、増田信博、青山　充、的場茂夫、高木雅之、信実節子、市川慶一、堀川留子、新岡浩美、山下高明、松本　清、なかじまちゅうじ、嶋川竜太郎、佐川久仁子、永富美智子、岩崎由美子、黒沢　守、阿部　隆、姫野美智、角田紘一■動画チェッカー／岩崎由美子■動画／坂野隆雄、馬渡久史、石井桂子、竹本裕香、荒木伸子、岸　祐弥、堀越久美子、松島陽子、今木宏明、薄田嘉信、仲條久美、岩崎由美子、末田久子、石原　哲、杉本光司、折井一雅、小野陽子、宮本美智子、山崎寿賀子■色指定／森田　博■検査／堀内由美■特殊効果／中島正之■ゼログラフ／戸塚友子■仕上／羽石隆志、金沢律子、須藤美穂、岡嶋良介、水上武司、中村千穂、林　恵美、井田昌代、橋本浩志、前本妙子、高瀬有紀枝、佐々木ひろえ、豊永眞一■背景／伊藤雅人、襟立智子、徳重　賢、小関俊之、渡辺佳人、福田和矢、大沢美恵子、杉田さおり、藤川健治、村上律子、清水彩、井上徹雄、西永一光、佐藤美幸■撮影／小谷野　武、、片山幸男、清水政夫、武井利晴、福井政利、坂西　勝、高橋基、田代儀幸、濱木　淳、安藤　茂、中得　覚、梶原裕美子、若尾卓見、沼子哲也、石井吉忠■CGアート／片田利明■音響効果／今野康之■録音助手／川崎公敬■ネガ編集／麻生芳弘、福田勝太郎■記録／小川真美子■助監督／ひろしまひでき■製作進行／野田由紀夫■仕上進行／山下紀彦■美術進行／御園　博■プロデューサー補／秋山陽子■協力プロダクション／荒木プロダクション、ムッシュオニオン、メルヘン社、ラストハウス、進藤プロダクション、スタジオピーコック、はだしぷろ、アニメハウス、タマプロダクション、エリプロダクション、スタジオイースター、シースルースタジオ、スタジオロフト、EEI-TOEI、TASCO上海、TANTANA ANIME 140、東映アカデミー■DOLBY一部上映館を除く／技術協力／森　幹生　コンチネンタルファーイースト株式会社■宣伝協力／フジテレビ■録音スタジオ／タバック、東映東京撮影所■現像／東映化学

楽しくやれたのが印象に残ってる映画だね
勝間田具治インタビュー

かつまた・ともはる
『ゲゲゲの鬼太郎　大海獣』監督



PROFILE 1938年2月4日生。静岡県出身。東映京都撮影所の助監督を経て東映動画へ。代表作は『タイガーマスク』(69年)「デビルマン」(72年)『マグネロボ ガ*キーン』(76年)『聖闘士星矢』(86年)など。

『大海獣』はね、ちょうど僕の定年間際に参加した作品なんだ。「おそらく最後になるかもしれないから、劇場をやらない?」って企画の清水(慎治)くんに誘われて、引き受けることにしたんだよ。

『鬼太郎』は第1期をやって以来、久しぶりだった。途中のカラー版(第2、3期)は1本も観ないでこれに参加したから、自分では白黒の感覚そのままでやったんだ(笑)。でも、楽しくやれたのが印象に残ってる映画だね。

やっぱり『大海獣』は冒険大活劇だからね。テレビとは違う、B級娯楽映画にしようと考えた。最初、星山(博之)くんが上げてきた初稿にもいろいろ注文をつけたのを憶えている。ただ、製作期間も詰まってきたから、ホン(脚本)を直している間にコンテに入らざるを得なかった。尺も最初は45分くらいだったのを、50分までならいいよ、ということで伸ばしてもらった。

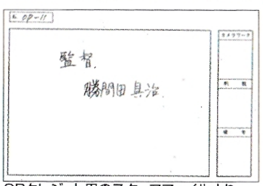
残っているコンテは、僕が最初にラフな画で描いたものとは違うね。レイアウトの縮小コピーを貼り付けてあるし、ト書きも活字になっている。何か、外部へのアピール用にあとで作ったような感じだけど、よくは憶えていない。

角田(紘一)くんはね、確か美術監督の東(潤一)くんが忙しくて設定まで手が回らないというので頼んだんだと思う。彼を含め、社内の作画は僕がそれまでやっていた『三国志』班からそのまま移行した感じかな。山下(高明)くんは当時から上手いなと思ってたし、的場(茂夫)くん、青山(充)くん……みんな『三国志』のメンバーだもんね。

妖怪チンポ役に古川(登志夫)くんを指名したのは僕だった。『ガ*キーン』で初めて彼を主役に起用して以来の付き合いなんだよ。ほかの妖怪の声については、みんなで決めたと思う。

え? 大海獣って原作では両目なの? 知らなかった(笑)。鬼太郎が変身するんだから……と普通に考えて片目にしたんじゃなかったかな。

(2007年　6月)

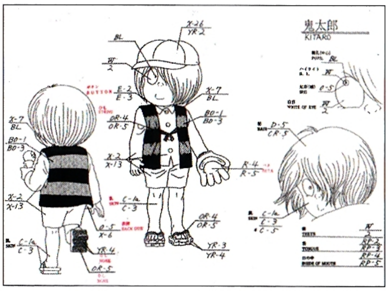


OPクレジット用のスタッフファイルより



ゲゲゲの鬼太郎 おばけナイター

公開日／1997年3月8日
脚本／島田 満　監督／佐藤順一
作画監督／淺 秀巳　美術監督／松宮正純

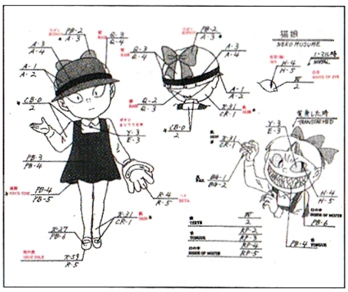


あらすじ

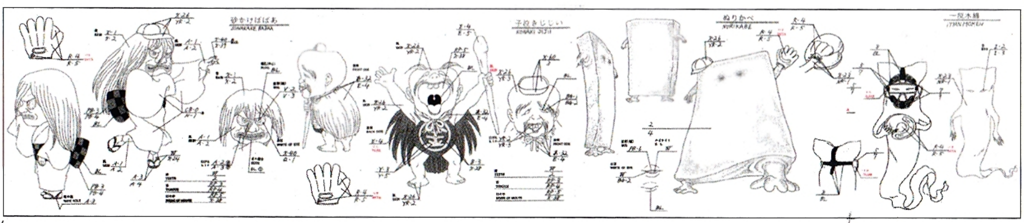
ねずみ男は三太郎に妖怪バットを与え、彼が所属する野球チーム・バトラーズの監督に就く。チームは連勝し続けるが、妖怪バットはホームランを打てる代わりに彼らの魂を吸い取っていく。忠告に現れた鬼太郎に対し、バトラーズはバットと魂を賭けた試合を挑む。だが、妖怪チームにバットは効かず、ついには敗退。鬼太郎は謝罪する彼らから妖怪バットだけを受け取り、魂は取らずに去って行く。三太郎たちは改心し、今日も練習に励むのだった。

原作及び脚本

原作は『週刊少年マガジン』66年8月1日（第46）号掲載の「おばけナイター」。脚本では、冒頭のシーンが映像と大きく異なり、ラストも、妖怪たちが三太郎の魂を取ろうとした瞬間、朝が来て去って行く展開になっており、より原作に近い。また、三太郎も鬼太郎の忠告に従い、一度はバットを返そうとしていた。

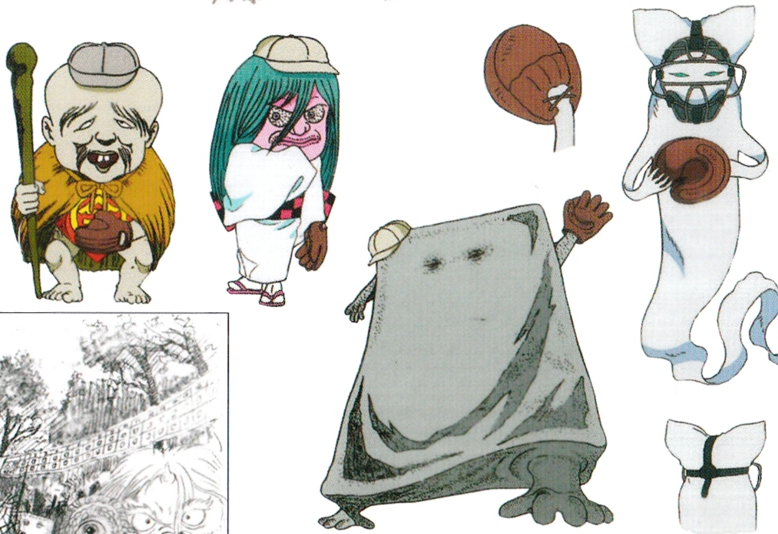






ゲゲゲの妖怪図鑑 其之陸

妖怪野球チーム



妖怪バットを取り戻すべく、鬼太郎が編成した妖怪野球チーム。ピッチャー・鬼太郎、キャッチャー・一反木綿、ファースト・輪入道、セカンド・傘化け、サード・小豆とぎ、ショート・子泣き爺、ライト・ねこ娘、センター・風神、レフト・砂かけ婆（と思われる）。ピンチヒッターに入ったぬりかべも守備に就いた。

球妖怪（審判）



妖怪バット

思いのままホームランが打てるが、代わりに使用者の魂を吸い取る。鬼太郎が回収した。





バトラーズ

弱いことで有名な少年野球チーム＝バトラーズの選手たち。ほかのチームから〝ブータレーズ〟と呼ばれていた。

三太郎

〝三振三太郎〟と呼ばれるほどヒットを打てない少年だったが、ねずみ男に妖怪バットを与えられ、状況は一変する。

（声／日高のり子）



純

（声／くじら）



光太

バトラーズのリーダー格。いつも怒鳴り散らしているが、本当は泣き虫。三太郎が妖怪バットを入手したことで調子づく。

（声／佐藤智恵）



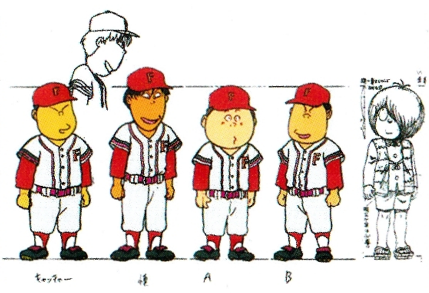
メガネ君

（声／嶋方淳子）



ファイターズ選手

バトラーズとの試合に勝利し、さんざんイヤミを言い放つ。後に妖怪バットを手にしたバトラーズに敗れる



慎

（声／高戸靖広）



プロ野球選手

〝本塁打の神様〟と呼ばれたが、怪我をして以来不調だった。妖怪バットを手に入れて復活したが、魂を吸い取られ死んでしまった。

テレビレポーター

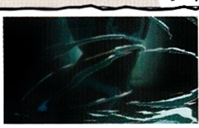
全打席ホームランで連勝、快進撃中のバトラーズを取材した。

ゲゲゲの鬼太郎 おばけナイター

シーン別 原画担当アニメーター一覧

荒木、姫野両氏の参加なしに作られた短編作品。ただし、荒木プロの主要アニメーター(木下和栄、高木雅之、信実節子、市川慶一)は個々にフリーの立場で原画を担当している。アバン部の、魂を吸われ自滅していく壮絶なバッターを描いたのは『世紀末救世主伝説 北斗の拳』(85年)の作監でも知られる羽山淳一氏だ。

シーン	カット	原画担当者	内容
0	1～22	羽山淳一	アバン部分すべて。バットを持ち去る鬼太郎まで
1	1～17	木下和栄	OP明けから、三太郎「打ってみたかったな」まで
2	1～14	岩崎由美子	夕暮れの電柱から、三太郎「妖怪バット？」まで
3	1～23	高橋英吉	路地の奥の三太郎「聞いたことあるよ」から、ねずみ男にくすぐられる三太郎「くさいよ～」まで
	24～49	岩根雅明	ねずみ男「妖怪バットでひと儲けしようぜ」から、三太郎の肩をポンと叩くねずみ男まで
4	1～25	木下和栄	金網のUPから、笑う純の背後で踊るねずみ男まで
5	1	岩崎由美子	盲人用タイルの向こうを歩く鬼太郎や人々の足
	2～9	堀川留子	タイルの上に歩み出る鬼太郎の足から、歩行者用信号の下に立つ鬼太郎の俯瞰まで
6	1～12	高木雅之	児童公園で話す三太郎たちから、鬼太郎「それ、妖怪バットなんだからさ」まで
	13	信実節子	鬼太郎「魂とられちゃってもいいの？」
	14	高木雅之	純「へーんだ、そんなのへっちゃらだよ……」
	15～25	信実節子	鬼太郎「どうしましょうか、父さん」から、三太郎の気のない返事「お、お～」まで
7	2～6	堀川留子	足のUPから、鏡の中の自分に驚く三太郎まで
8	1～10	岩崎由美子	もやのかかる夜道から、ボールを落とす鬼太郎まで
	11～21	堀川留子	鬼太郎を嘲笑うねずみ男から、一反木綿「しまっていくでごわす～」「オ～！」まで
	26～49	市川慶一	審判「誰が一番に死にたいの～」から、審判「アウトよぉ」まで
	50～59	高木雅之	ねずみ男「ドンマイ！行け行け!!」から、審判「ツーアウトよぉ」まで
	60～68	信実節子	打つ光太から、審判「チエンジィ」まで
	69～90	阿部 隆	困るピッチャー純「う～、この場合……」から、審判「反則よ、アウトぉ」まで
9	1～26		
	27～74	星川信芳	泣きながらバットを振るメガネから、バットを構えるねずみ男「来い！」まで
	75	市川慶一	投げる鬼太郎(8-32兼用)
	76～80	星川信芳	ねずみ男の鼻息から、ボールを受け取る鬼太郎まで
	81～88	動画工房	愕然とするメンバーから、バット構える三太郎「いいよ！」まで
	89	市川慶一	投げる鬼太郎(8－32兼用)
	90～117	動画工房	振る三太郎から、得点表に浮かぶ0の文字まで
	118～146	工藤誉寿治	踊りながら迫る妖怪たちから、ボールを打つ三太郎のラストカットまで
10	1～5		




羽山淳一氏が手掛けたアバンタイトルより

三太郎がホームランを打つかどうかで島田さんと意見を戦わせました

佐藤順一インタビュー



さとう・じゅんいち
『ゲゲゲの鬼太郎　おばけナイター』監督

PROFILE 1960年3月11日生。愛知県出身。'81年4月、東映動画に入社。'98年10月にフリーとなり、現在はハルフィルムカンパニー所属。代表作は『美少女戦士セーラームーン』(SD／92年)『魔法使いTai!』(監督／96年)など。

『おばけナイター』は、脚本の島田満さんが前からやりたいと思っていたエピソードらしいんですね。大掛かりなスペクタクルはないし、『鬼太郎』のなかでは決して劇場向きとはいえない。でも僕としてはかえって、地に足が着いたものをしっかり作るにはいい機会じゃないかと思いました。尺も30分と短めだったしね。

町の描写には力を入れました。子どもたちが普通に目にする絵にしようと思っていたので、練馬や大泉あたりを見て回ったんです。例えば電柱って、棒がただ立っているようなものをイメージしがちなんですが、実際は金属の輪とか線とか、何に使うのか判らない機械とかがいっぱい付いている。そういうディティールを描き足すことで存在感が出てくるんです。横断歩道でも、盲人用の黄色いタイルをちゃんと描いておくと、アップで見せたときすごく生きるんですね。といっても、写真を撮ったりスケッチしたりしたわけじゃないんです。あくまでも、目で見たのを思い出して描くようにしました。そこは"らしさ"があればいいと思ったので。

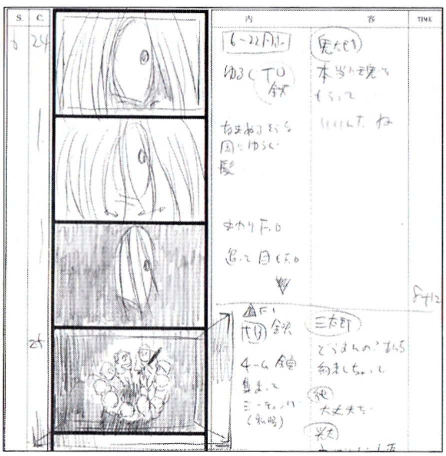
審判の妖怪については、筋肉的な質感の表現に凝ってみました。筋肉のスジを実線で入れた上に、立体感を出すための影を重ねているんですが、あれをブラシの処理だけでやると、動くたびにチラチラした画面になってしまうんです。劇場版『悪魔くん』(89年)のとき、人形に不気味な影をつけようとして一度失敗した経験があるんですよ(笑)。そこでこの『おばけナイター』では、影のセルを別に用意してダブラセる方法に変えたんです。影は完全に黒く塗っておいて、エッジだけブラシをかけてボカす。その影セルを、50%露出で線画の上に重ねて撮ったんです。50%なら影は影としてうまく機能し、チラチラしないんですね。でも、劇場版だから出来ることで、テレビでこんな手間なことをやったら怒られちゃいますね(笑)。

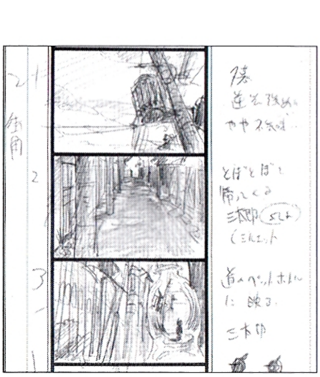
この作品で印象深いのは、三太郎がホームランを打つかどうかで島田さんと意見がぶつかったことです。そもそも島田さんが『おばけナイター』をやりたかった理由が、三太郎が最後にスカッとホームランを打つ映画を作りたかったからなんですね。でも僕は、それはあまりに出来過ぎでむしろスカッとしない、と感じました。多分、『鬼太郎』という素材に対する見方が違うんだと思うんです。島田さんはきっと漫画映画的に捉えており、僕はテレビをやっているときから『鬼太郎』の持つ日常感や、観ている人と地続きな感じが大事なんだと捉えていた。だから、最終的に精神論でガツッとホームランを打って決着、という描き方にどうしても違和感を覚えたんです。結局コンテを描く際に、試合では三振し、エピローグで"どうやらホームランを打ったらしいぞ"と解る…そういう展開に変えました。

三太郎が泣くシーンは、『ユンカース・カム・ヒア』(95年)で主人公・ひろみが泣くところを踏襲しています(笑)。『ユンカース』であのシーンを描いたのは小田川幹雄さんなんですが、子どもの仕草をよく見ていて、実に存在感のある芝居になっていたんです。例えば、子どもが涙を拭くとき、手の甲ではなく、手のひらのほうで目をこすったりね。自分の子どもを見ても、確かにそうだなと納得できる仕草だった。泣きや笑いって定番なので、ついステロタイプな芝居に陥りがちなんです。だからこそ慎重に"本当はこうだよね"という表現を目指したいな、と思いました。

鬼太郎が「本当に、魂をもらっていいんだね？」と言って髪がサラサラなびくシーン、あの不気味さはかなり狙ってやりました(笑)。「鬼太郎は本当は恐いのでは？」というのは、この映画のひとつの方向性といえますね。僕は第4期の『鬼太郎』の魅力は、まさにそこにあると思っていますから。

(2007年　6月)





ゲゲゲの　鬼太郎　おばけ　ナイター

映倫ＮＯ／26317号
初　号／1997(平成9)年2月28日
封　切／1997(平成9)年3月8日
上映時間／29分53秒23K
作画枚数／7,136枚

〈オープニングクレジット〉

■／東映■製作／高岩　淡、泊　懋■企画／清水慎治■原作／水木しげる「テレビマガジン」「たのしい幼稚園」「おともだち」「コミックボンボン」連載(講談社)■脚本／島田　満■音楽／和田　薫■主題歌　オープニング「ゲゲゲの鬼太郎」　作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　唄・編曲／憂　歌　団　エンディング「カランコロンのうた」　作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　唄・編曲／憂　歌　団(wea japan)■製作担当／目黒　宏■撮影／菅谷信行■編集／片桐公一■録音／今関種吉■美術監督／松宮正純■作画監督／窪　秀巳■監督／佐藤順一

〈エンディングクレジット〉

■声の出演／鬼太郎(松岡洋子)、目玉おやじ(田の中　勇)、ねずみ男(千葉　繁)、砂かけ婆(山本圭子)、ねこ娘(西村ちなみ)、子泣き爺(塩屋浩三)、一反木綿(龍田直樹)、、三太郎(日高のり子)、純(く　じら)、光太(佐藤智恵)、洋(浦和めぐみ)、慎(高戸靖広)、メガネ君(嶋方淳子)、、輪入道(岸野幸正)、風神(川津泰彦)、球妖怪(小野坂昌也)、小豆とぎ(松尾銀三)、小豆はかり(高木　渉)、畑怨霊(太田健介)■原画／阿部　隆、石黒　育、星川信芳、木下和栄、岩根雅明、高橋英吉、羽山淳一、工藤誉寿治、市川慶一、高木雅之、堀川留子、岩崎由美子、信実節子■動画チェッカー／岩崎由美子、福井智子■動画／浅井義之、小曽根陽子、杉山恭子、本舘　耐、羽山阿津子、岩崎優子、森下智美、阿尻隆司、石井桂子、荒木伸子、青梅房子、赤間てる子、吉田大輔、中島健志■色指定／板坂泰江■検査／堀内由美■特殊効果／中島正之■ゼログラフ／金井八重子■仕上／羽石隆志、金沢律子、岡田初美、小浦千代美、多賀鉄男、管　美幸、清川由紀子、北構麻美、宮崎亮滋、大村規子■背景／井上徹雄、阿部泰三郎、鈴木和彦、清水哲弘、河戸英樹、阿部とし子、中田　愛、糸満　昭■撮影／山川　進、五十嵐　香、田中伸二、星　寿子、出水和文、田中新奈、西川由香、岡野祐一郎、水上清太■音響効果／今野康之■録音助手／蔵本貞司■ネガ編集／福田勝太郎■記録／小川真美子■助監督／ひろしまひでき■製作進行／岡田将介■仕上進行／黒田　進■美術進行／高久　博■プロデューサー補／有原美千代■宣伝／大西弘行、相田光江、星　玲子、磯部武志■協力プロダクション／荒木プロダクション、スタジオコックピット、動画工房、スタジオピーコック、スノーライトスタッフ、スタジオライブ、EEI-TOEI、ムッシュオニオン、スタジオロフト、青二プロダクション■DOLBY一部上映館を除く／技術協力／森　幹生　コンチネンタルファーイースト株式会社■宣伝協力／フジテレビ、読売広告社■録音スタジオ／タバック、東映東京撮影所■現像／東映化学



全体の画風を荒木さんのカラーに近づけるよう努力したつもりです

窪　秀巳インタビュー

くぼ・ひでみ
『ゲゲゲの鬼太郎　おばけナイター』作画監督



PROFILE　アニメーター、作画監督。現在は東映アニメーション作品を中心に活躍中。キャラクターデザインを手掛けた代表作は東映アニメーションの『勝負師伝説 哲也』(00年)、総作画監督として『リングにかけろ—日米決戦編—』(06年)など。

『鬼太郎』の第4期で参加したのはこの『おばけナイター』1本です。テレビシリーズには残念ながら関わっていません。僕が東映アニメーションの仕事をするようになって間もない時期だったので、初対面のスタッフの方々が多くて。監督の佐藤(順一)さんもそうで、ネームバリューのある方だとは知っていたんですが、一緒に仕事をするなかでそのスゴさを実感していきました。

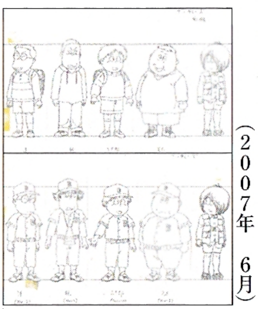
キャラクターデザインは、妖怪についてはすべて荒木(伸吾)さんが描かれていました。僕が担当したのは三太郎をはじめとするゲストの少年たちですね。絵コンテをもとに、佐藤さんにチェックして頂きながらデザインを決めていったと記憶しています。元々荒木さんの絵が好きでしたから、作画にあたっては、なるべく全体の画風を荒木さんのカラーに近づけるように努力したつもりです。

佐藤さんの演出で印象的だったのは、レイアウトを厳しくチェックされて、背景原図の細かいところまで手を入れていく姿勢でした。電柱の部品、下水路や植え込みの葉の1枚まで丹念に描き足したり。ふと見逃してしまいそうな背景のディティールに気を遣われるんです。それと、全編にわたり、子どもらしい自然な仕草や、表情の豊かさを出そうとされていました。各キャラクターの芝居のタイミングです。各原画さんもそんな佐藤さんの意向に添うために、〝柔らかい動き〟を心掛けて作画されていました。

作監修正の面で苦労したのは鬼太郎です。線1本の違いで表情がまるで変わってしまう。そこが難しかったですね。

実にいろんな勉強をさせてもらった作品です。今回、久しぶりに観せて頂いて懐かしさと同時に、基本に還ることの大切さを教えられる思いでした。

(2007年　6月)



劇場版『ゲゲゲの鬼太郎』シリーズの雑誌展開について

『ゲゲゲの鬼太郎』第3シリーズ(85年)と第4シリーズ(96年)の雑誌展開は、共に講談社が中心となって行われた。第3シリーズでは第1シリーズからの主力掲載(というよりは原作連載)誌である『週刊少年マガジン』を主軸にしつつ月刊誌の『テレビマガジン(以下テレマガ)』『コミックボンボン(以下ボンボン)』に毎号特集記事及び漫画を連載。第4シリーズよりメインの連載誌が『週刊マガジン』から『テレマガ』にバトンタッチ。同時に『ボンボン』『(月刊)たのしい幼稚園』などでも毎号紹介記事が掲載された。



『テレビマガジン』96年8月号掲載の東映アニメーションによる描き下ろしグラビア。もちろんプレゼントは当時のものなので、今応募しても無効である

当然、劇場公開作品も大々的に扱われ、当該月及びその前後の号では特集記事が組まれた。特に『テレマガ』では描き下ろしのカラーイラストを多数掲載。その充実ぶりは他誌を圧倒していた。ここでは劇場版に関する記事目録を表にして掲載した。

また、『ボンボン』では第3シリーズ時に、劇場映画の公開に合わせて〝テレホンメッセージ〟を展開。これは指定された電話番号にかけると鬼太郎=戸田恵子によるメッセージを聞くことができるという読者サービスで、映画情報はもちろん『ボンボン』最新号のお知らせを、戸田嬢が鬼太郎になりきって易しく紹介してくれていた。『激突!!異次元妖怪の大反乱』公開時のメッセージでは、妖怪皇帝の正体がぬらりひょんであることを話してネタバレさせてしまっていたりと、どれも決して侮れない内容だった。

『テレビマガジン』掲載・劇場版『ゲゲゲの鬼太郎』シリーズ関連記事目録

掲載号	記載記事タイトル	内容	絵
1986年1月号	「ゲゲゲの鬼太郎」を割引でみよう!	特別優待(割引)券	
1986年4月号	春休みだよ～ん大けんしょう!おうぼはがき	綴じ込み	
〃	ゲゲゲの鬼太郎　妖怪大戦争　バックベアード軍対鬼太郎軍団	4色・2ページ	
〃	映画ゲゲゲの鬼太郎「妖怪大戦争」を割引でみよう!	特別優待(割引)券	
〃	春休み映画ゲゲゲの鬼太郎「妖怪大戦争」どちらが強い? 東西妖怪軍 妖力くらべ	1色・2ページ	
1986年8月号	バンダイ人気おもちゃ大けんしょうおうぼはがき	綴じ込み	
〃	ゲゲゲの鬼太郎大特集 楽しいゲゲゲのぼんおどり	4色・2ページ	山口泰弘
〃	夏休み東映まんがまつり ゲゲゲの鬼太郎 最強妖怪軍団 日本上陸!	4色・3ページ	
〃	ゲゲゲの鬼太郎 中国妖怪対日本妖怪	1色・6ページ	水木しげる(水木プロ)
1986年9月号	ゲゲゲの鬼太郎 たおせ!中国妖怪軍団	4色・5ページ	
1987年1月号	ゲゲゲの鬼太郎今年の6大ニュース	4色・1ページ	
〃	ゲゲゲの鬼太郎冬休み映画情報　げきめつ!異次元妖怪の大はんらん	4色・3ページ	山口泰弘
1987年2月号	お正月スペシャル大けんしょうおうぼはがき	綴じ込み	
〃	鬼太郎冬休み映画情報　げきめつ!異次元妖怪軍団	4色・2ページ	山口泰弘
〃	ゲゲゲの鬼太郎ひみつ情報　ヘエヘェヘェおばけ教室　妖怪戦車大図解	2色・2ページ	
1996年7月号	映画ゲゲゲの鬼太郎 大海獣のすべて	4色・3ページ	
1996年8月号	ゲゲゲの鬼太郎 大海獣 南方妖怪軍団日本上陸さくせん	4色・3ページ	
1997年3月号	ゲゲゲの鬼太郎 おばけナイター 3月15日,プレイボール!	4色・2ページ	
1997年4月号	ゲゲゲの鬼太郎 おばけナイター 人間チームきりきりまい鬼太郎の魔球さくれつ!	4色・2ページ	
1997年7月号	ゲゲゲの鬼太郎 妖怪特急!まぼろしの汽車 鬼太郎が西洋妖怪と大げきとつ!	4色・2ページ	
1997年8月号	妖怪特急!まぼろしの汽車 はくりょく!妖怪大決戦!	4色・2ページ	



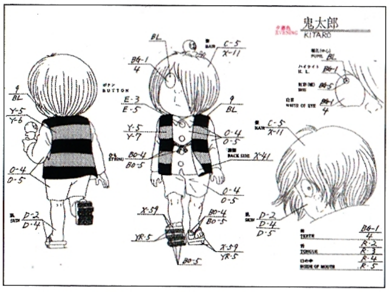
ゲゲゲの鬼太郎

妖怪特急！まぼろしの汽車

公開日／1997年7月12日
脚本／大橋志吉　監督／吉澤孝男
作画監督／荒木伸吾、姫野美智
美術監督／徳重 賢

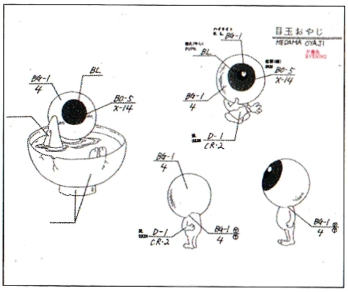
あらすじ

地獄に落とされていた西洋妖怪たちが、封印されていたまぼろしの汽車を奪って逃走した。どこにでも行けるその汽車で暗黒世界に行き、世界中の妖怪を支配できる力を得ようというのだ。閻魔大王の依頼を受け、鬼太郎ファミリーが立ち上がった。だが、鬼太郎が石炭に変えられ、窮地に陥る。そこで目玉おやじはまぼろしの汽車の進路を過去に変え、鬼太郎を復活させることに成功。鬼太郎の逆襲により西洋妖怪は汽車と共に地獄へ送還された。



原作及び脚本

『週刊少年サンデー』（小学館）71年10月24日（第44）号掲載の「まぼろしの汽車」をベースに、「妖怪大戦争」の後日談を描いた映画用オリジナルストーリー。脚本には、最終決戦で汽車が暴走。目玉おやじがそれを止めるべく力を使い果たして倒れるシークエンスが存在。より原作を意識した終幕となっていた。





美術ボード集

本作のために描き起こされた美術ボードを紹介。主にまぼろしの汽車の車内風景が多い。

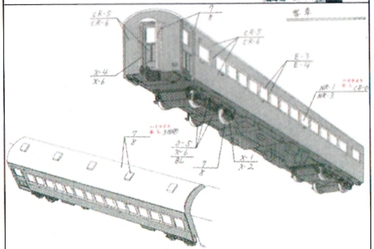


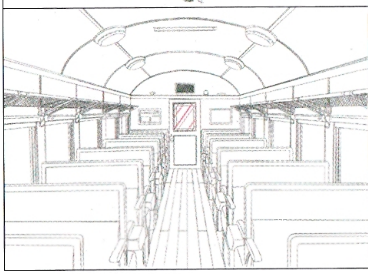
まぼろしの汽車



この世でもあの世でも、過去でも未来でも、どこにでも行けるという汽車で、地獄の閻魔大王が封印していたが、吸血鬼らによって奪われた。彼らは暗黒世界へ赴き、世界中の妖怪を支配するパワーを得ようと企む。だが、鬼太郎らの活躍で無事奪還。地獄へと戻された。









閻魔大王



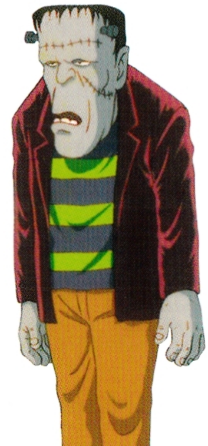
西洋妖怪たちがまぼろしの汽車を奪って逃走したため、眠っている目玉おやじの夢に現れ、彼らの捕縛と汽車奪還を依頼した。

吸血鬼



地獄からまぼろしの汽車を奪って脱走した西洋妖怪軍のリーダー格。刃の付いたシルクハットや剣、マントを刃物のようにして攻撃する。鬼太郎をマントの中に抱き込んで、妖怪石炭に変えるが、元の姿に戻った鬼太郎の逆襲の前に敗北。地獄へと送還された。

フランケン



顔に巻き付いた一反もめんを、その怪力で引き千切った。だが、復活した一反もめんや子泣き爺らの逆襲に遭って倒される。

魔女



ほうきに乗って飛行し、手に持ったハサミで戦った。ねずみ男に惚れる（!）が、彼のおなら攻撃を受けてダウンする。

狼男



汽車の中で鬼太郎たちと戦う。だが、目立った活躍もないまま鬼太郎のゲタ攻撃を喰らって倒れ、地獄へ送り返された。

ゲゲゲの鬼太郎 妖怪特急！まぼろしの汽車

シーン別 原画担当アニメーター一覧

荒木&姫野両作監の美意識が画面の隅々にまで行き渡った作品。キャラクターの芝居とアクションは原則として荒木氏と同プロのメンバーが、メカや煙のエフェクトなどは東映動画の的場茂夫氏、八島善孝氏、外注プロのダストが分担。特に、汽車のカットの大半を手掛けた的場氏の緻密かつ力強い作画は注目に値する。

シーン	カット	原画担当者	内　容
1	1	荒木プロ	ドクロ山へのPAN DOWN
2	1~3	的場茂夫	汽車の出現から、空間への消失まで
3	1~3		
4	1~8、10、12~13	荒木プロ	街のPAN DOWNから、ねずみ男の登場、ねずみ男「地震だァ!!」、汽車を見送る街の人々まで
	9、11	的場茂夫	風呂屋の看板から飛び出す汽車
	14	八島善孝	空の向こうへ走り去る汽車のアオリ
5	1~3	荒木プロ	鬼太郎の家に飛んでいく光球から、鬼太郎たちを追うねずみ男「俺を置いてくなよーっ」まで
6	1~10		
7	1~9		
8	1~3		
9	1~2、12	的場茂夫	上空を走る汽車、夕陽に向かう汽車と魔女
	3~11、13~20、23~25、27~30	荒木プロ	一反木綿で飛んでくる鬼太郎から、魔女に襲われる鬼太郎たち、さらわれるねずみ男まで
	21~22、26	八島善孝	屋根の上に不時着する子泣きや鬼太郎たち、落下しつつパラシュートを開くねずみ男
10	1、5、10	的場茂夫	夜空を走る汽車、サンシャイン60を背景に進む汽車、百人町ガードの手前を行く汽車
	2~4、1~6、11~24、25A~28	荒木プロ	車内に入る鬼太郎たち、狼男の変身と戦い、窓辺の会社員、魔女に惚れられたねずみ男
	25	八島善孝	新宿警察署前の交差点を行く汽車
11	1~11	荒木プロ	一反木綿を縫うねこ娘から、フランケンに投げられるねこ娘まで
12	1	的場茂夫	新宿副都心を背景に走ってくる汽車
13	1、3~4、6~23	荒木プロ	走ってくる鬼太郎、コウモリへの毛針発射、ドラキュラとの戦い、逃げ出す目玉まで
	2、5	八島善孝	飛来するコウモリ群、出現するドラキュラ
14	1~22、24~28	荒木プロ	迫るフランケンから、微笑むフランケンまで
	23	ダスト	ドラキュラに続いて歩く狼男の後ろ姿
15	1	的場茂夫	調布IC付近を通過する汽車
16	1~3	荒木プロ	釜の内部から、焚き口の穴より漏れる光まで
	4	ダスト	赤い蒸気を出しつつ走る汽車のアオリ
17	1~3	荒木プロ	ねこ娘「閉じ込められちゃったよ」から、子泣き爺「しかし、そんなことができるんじゃろうか」まで
18	1~7		
19	1~3		
20	1、2A、8、16、32	的場茂夫	河口湖IC付近を通過する汽車、フジヤマの橋脚間を抜ける汽車(正面)、ムーンサルトスクランブルの間を行く汽車、暗黒空間に近づく汽車、暗黒空間から離れていく汽車
	2、3、6~7、10、12~13、15、17、19、22~26、28~31、33~48	荒木プロ	汽車の屋根へ登るねこ娘から、食堂車のドラキュラたち、ねこ娘「あれは!?」、屋根を走るねこ娘、運転席のねこ娘、衝撃後の反応「どうなってんだ」「あいたたた」「一体、何が」、異変に気づき運転席に向かうドラキュラたち、鬼太郎の復活、「父さんを頼む」まで
	4~5、14、20、27	ダスト	フジヤマの橋脚をすり抜ける汽車、蒸気を出す汽車(16-4兼用)、ブレーキかかる車輪、空間に入った後、再び出てくる汽車
	9、11、18、21	八島善孝	暗黒空間の出現とそこに向かう汽車、ブレーキの反動ではじき飛ばされるドラキュラたち
21	1~3	荒木プロ	フランケンの様子を伺う子泣きたちから、力むねずみ男、魔女「きくぅ~」、ねずみ男「熟成オナラの味はよ」まで
22	1~6		
23	1~4、6~7		
	5	八島善孝	ねずみ男のオナラで吹っ飛ぶ魔女
24	1~6	荒木プロ	砂かけの攻撃から、子泣き「オギャー」まで
25	1~6、8~32	荒木プロ	剣をふるうドラキュラから、鬼太郎「待てェ!!」、屋根での戦いと決着まで
	7、33	ダスト	左からINする汽車、走り過ぎる汽車の屋根
26	1	ダスト	夜の新宿上空に休む汽車
	2~15	荒木プロ	縛られた妖怪たちから、鬼太郎「はい」まで
27	1~3	ダスト	蒸気を吹く汽笛から、回転する動輪まで
	4~5	荒木プロ	汽車のINから、空に消えるまで(2-1兼用)

頭のなかには『銀河鉄道999』の設定がありました（笑）

吉澤孝男インタビュー



よしざわ・たかお
『ゲゲゲの鬼太郎　妖怪特急！まぼろしの汽車』監督

PROFILE　1950年11月生。東京都出身。朝日フィルム、高橋プロ、スタジオエイトを経て東映動画へ。代表作は『ろくでなしBLUES』（監督／92年）『こっちむいてみい子』（SD／98年）など。

『まぼろしの汽車』の監督を、という話は清水（慎治）プロデューサーから頂いたものです。僕はかつて劇場の『銀河鉄道999』の助監督を2本続けてやった経験があり、それもあってか機関車モノが来ることが多いんですよ（笑）。汽車のデザインや、ビルの間を飛ぶところなんか、どことなく『999』に似ていると思います。僕の頭のなかにはあの作品の設定があったので（笑）。

一応ロケハンもやってるんです、今はもう閉鎖になった、万世橋の交通博物館に荒木（伸吾）さんはじめ、美術スタッフを連れて行きました。皆に知ってほしかったのは、背もたれの前に人物が立ったときの大きさやバランスと運転席でした。機関車内部や動力部、客車のドアの感じなども、実際に見るのと写真資料とでは違いますからね。

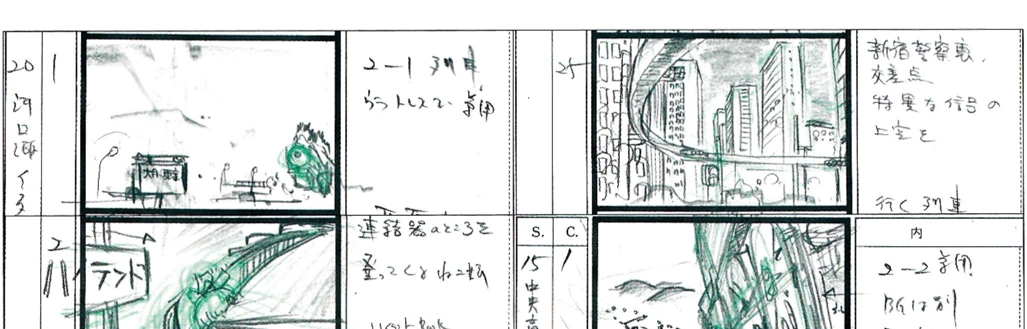
物語は単純明快でした。新宿から富士急ハイランドへ行くという話（笑）。何でそうなったかというと、当時、東映アニメーションと富士急ハイランドが施設映像やイベントなどの事業面で協力関係にあったんですね。で、この映画でもタイアップすることになり、終着駅を富士急ハイランドにしたわけです。具体的な道順を想定するにあたり、ここでもロケハンを行いました。富士急の高速バスで新宿西口から中央高速を遊園地まで走ったんです。演出助手の広嶋（秀樹）くんが、途中の看板などを撮影して（笑）。楽しかったですね。コンテを見てもらうと判るんですが、まぼろしの汽車が通過する風景には、具体的な地名や建物を指定しているんです。ただ、取材写真のアングルはそのままでは使えません。汽車は道路ではなく、空中を走るわけですからね。空から見たらこうなるだろう、という視覚化は、美術の徳重賢さんの度量とイマジネーションの賜物です。

それと当時、ジェットコースターの〝フジヤマ〟が完成して間もない頃で、ぜひ映画に出してほしい、ということになりましてね。スタッフのみんなで、実際に乗ってみました。「どのくらいの高さなのか」「列車が橋脚の間を突き抜けるんだけどできるの？」とか。本当は、梁の間隔が狭いからとても無理なんですけど（笑）。あれは恐かったです。こんなことでもないと僕は絶対乗りませんよ。

汽車が走るカットの原画は、殆ど的場茂夫さんが描いています。地獄から骸骨を蹴散らしながら出現する汽車やカラスの大群の迫力のある場面もそうです。あ、いう緻密な原画を描ける人材として、的場さんは最適のアニメーターだったんです。一方、鬼太郎と妖怪たちのバトルシーンは、荒木さんにお願いしました。だから、汽車のなかは荒木プロ、外観が出ると的場さんというように、後半のシーンは細かく作画が分担されているんです。カットによっては、荒木さんから「ここは的場さんに」って言われた箇所もあり、適材適所でうまく担当が分けられたと思います。

冒頭の汽車がねずみ男の前に出て来るシーン。これは当時スタジオの近くに、駐車場にするというので壊してしまった銭湯がありましてね。1年くらい、立派な富士山のペンキ絵の壁だけがボーンと外に残ってたんです。〝富士山から富士山へ〟という思いつきで、ここから汽車が出てくることにしたんです。元のシナリオでは確か、下町の上空を既に汽車が走っている展開だったんですが……。ただ、後から考えると、本当に営業中の銭湯の壁から出したほうがよかったなと。裸の客が逃げ回るシーンにしたほうがインパクトがあったかな、と思いましたね。

（2007年　5月）



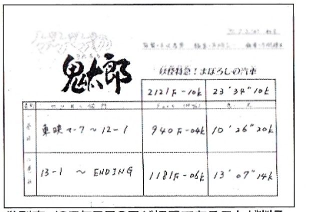
絵コンテより。実際の地名を指定しているカットの数々

ゲゲゲの　鬼太郎　妖怪特急！　まぼろしの汽車

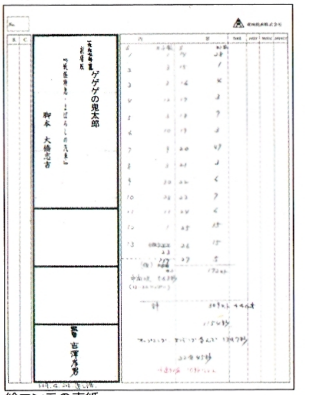
映倫ＮＯ／26341号
初　　号／1997(平成9)年7月3日
封　　切／1997(平成9)年7月12日
上映時間／23分34秒10K
作画枚数／7,572枚

〈オープニングクレジット〉
■■■TOEI ANIMATION■製作／高岩　淡、泊　懋■企画／清水慎治、蛭田成一■原作／水木しげる「テレビマガジン」「たのしい幼稚園」「おともだち」「コミックボンボン」連載(講談社)■脚本／大橋志吉■音楽／和田　薫■主題歌　オープニング「ゲゲゲの鬼太郎」　作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　唄・編曲／憂　歌　団　エンディング「イヤンなっちゃう節」　作詞／森　雪之丞　作曲／岡本　朗　編曲／憂歌団 with HAKABA'S　唄／憂　歌　団 (wea japan)■製作担当／本間　修■撮影／菅谷信行■編集／片桐公一■録音／今関種吉■美術監督／徳重　賢■キャラクターデザイン、作画監督／荒木伸吾、姫野美智■監督／吉澤孝男

〈エンディングクレジット〉
■声の出演／鬼太郎(松岡洋子)、目玉のおやじ(田の中　勇)、ねずみ男(千葉　繁)、砂かけ婆(山本圭子)、ねこ娘(西村ちなみ)、子なき爺(塩屋浩三)、一反木綿(龍田直樹)、、閻魔大王(柴田秀勝)、吸血鬼(塩沢兼人)、狼男(島田　敏)、フランケン(増谷康紀)、魔女(ク　ロ)■原画／木下和栄、姫野美智、茅野京子、的場茂夫、坂野隆雄、市川大作、八島善孝、永沢謙一■動画チェッカー／末廣直貴■動画／石井桂子、荒木伸子、鈴木拓郎、深本泰永、岸　祐弥■色指定／板坂泰江■仕上検査／前田剛弘■特殊効果／太田　直■仕上／大堀陽子、吉沢啓子、本橋政江、菅野保子、高石峯子、出本泰恵、石川直樹、清川由紀子、高瀬有紀枝、坂口和夫■背景／徳重　賢、小関俊之、土橋　誠、橘　輝樹■撮影／五十嵐　香、山川　進、田中伸二、星　寿子、出水和文、岡野祐一郎■音響効果／今野康之■録音助手／明石崇廉■ネガ編集／後藤正浩■編集助手／森本真貴■記録／小川真美子■助監督／ひろしまひでき■仕上進行／山下紀彦■美術進行／高久　博■プロデューサー補／有原美千代■宣伝／大西弘行、星　玲子、磯部武志■協力／荒木プロダクション、ＤＡＳＴ、ＥＥＩ-ＴＯＥＩ、はだしぷろ、スタジオポッケ、ピーコック、アニメハウス、すたじおガッシュ、ベガエンタテイメント、エーシーシープロダクション、青二プロダクション、、富士急ハイランド
■ DOLBY 一部上映館を除く　技術協力／森　幹生　コンチネンタルファーイースト株式会社■宣伝協力／フジテレビ、読売広告社■録音スタジオ／タバック、東映東京撮影所■現像／東映化学



巻別表。'97年7月3日が初号であることが判る



絵コンテの表紙

劇場版『ゲゲゲの鬼太郎』シリーズのサウンド・トラックについて

『ゲゲゲの鬼太郎』第4シリーズ、劇場公開作品の特記事項のひとつとして、各作品毎にサウンド・トラックアルバム（ＣＤ）が発売された点が挙げられる。単独の劇場公開作品ならいざ知らずＴＶシリーズの劇場版のサントラが、しかも全タイトル独立して発売された例は『鬼太郎』史、東映アニメーション史のみならず、我が国の映画史においても極めて稀有なことではなかろうか？　ＴＶシリーズのサントラは96年4月25日にワーナーミュージック・ジャパンより発売。それを受け継ぐ形で、第2～4弾としてこれらのアルバムが発売された。ここでは商品データと曲目リストを表にして掲載する。なお、第3シリーズのサウンド・トラックは徳間ジャパンコミュニケーションズより全3巻が発売されたが、Vol.1、2がＴＶサントラ、Vol.3が『妖怪大戦争』公開後（86年9月25日）に「映画音楽編」と題して発売された。

驚くべきことに、いずれもネットショップ及び店頭在庫で購入が可能。但し『おばけナイター』『妖怪特急！』の2作品は稀少在庫で入手困難になっているので、購入希望の方はお早めに。

'97夏 東映アニメフェア
ゲゲゲの鬼太郎 妖怪特急!まぼろしの汽車
劇場版オリジナル・サウンドトラック
発売日／1997年7月25日
ディスク枚数／1
レーベル／ワーナーミュージック・ジャパン
価格／¥2,500（税抜）
ASINB／00005HIRD

曲目リスト
1. ゲゲゲの鬼太郎（オープニングテーマ）TVサイズ うた:憂歌団
2. 空を走る妖怪列車!!
3. ゲゲゲの鬼太郎 ～日本妖怪VS西洋妖怪～
4. 魔女のテーマ
5. 妖怪特急の中で～狼男登場～
6. 負けるな鬼太郎と仲間たち
7. フランケンのテーマ
8. 吸血鬼のテーマ
9. 大ピンチ!!逃げるでゴワス。
10. ゲゲゲの鬼太郎 ～吸血鬼のたくらみ～
11. ねこ娘、過去へ向かえ!!
12. あせる吸血鬼たち
13. さあ、反撃だ!! ～ねずみ男VS魔女～
14. 鬼太郎VS吸血鬼
15. ゲゲゲの鬼太郎 ～のんびり風呂に入りましょう～
16. イヤンなっちゃう節（エンディングテーマ）TVサイズ うた:憂歌団
17. お楽しみ"ゲゲゲの鬼太郎"ソングメドレー:鬼太郎行進曲～ゲゲゲの応援歌～ゲゲゲの音頭～目玉のおやじの妖怪数え歌～ロックだ、ねこ娘～ねずみうた～



'97春 東映アニメフェア
ゲゲゲの鬼太郎 おばけナイター
劇場版オリジナル・サウンドトラック
発売日／1997年3月25日
ディスク枚数／1
レーベル／ワーナーミュージック・ジャパン
価格／¥2,500（税抜）
ASIN／B00005HIPV

曲目リスト
1. ゲゲゲの鬼太郎（オープニングテーマ）TVサイズ うた:憂歌団
2. 妖怪バットの秘密
3. 三太郎とねずみ男の出会い
4. 妖怪バット発見!!
5. 墓場の中の恐怖
6. おれが監督ねずみ男だ
7. 大勝利!!おどるねずみ男
8. ゲゲゲの鬼太郎 ～鬼太郎の忠告～
9. 三太郎の不安
10. プレイボール ～鬼太郎チームVSブータレーズ～
11. ゲゲゲの鬼太郎 ～三太郎の後悔～
12. おみごと猫むすめ!!
13. がんばれ三太郎
14. 三太郎の気持ち
15. ゲゲゲの鬼太郎 ～鬼太郎たちと三太郎たちの友情～
16. やっぱり野球は人間のものさ
17. カランコロンの歌（エンディングテーマ）TVサイズ うた:憂歌団
18. ゲゲゲの応援歌
19. 同（オリジナル・カラオケ）

'96夏 東映アニメフェア
ゲゲゲの鬼太郎 大海獣
劇場版オリジナル・サウンドトラック
発売日／1996年7月25日
ディスク枚数／1
レーベル／ワーナーミュージック・ジャパン
価格／¥2,500（税抜）
ASIN／B00005HION

曲目リスト
1. ゲゲゲの鬼太郎～TVサイズ～（歌:憂歌団）
2. タイトルバック
3. バルル島到着
4. 聞き込み開始
5. 長老からの秘話
6. ジャングルへ
7. ゲゲゲの鬼太郎（アクション・ヴァージョン）
8. ピンチ～VSアカマタ～
9. 薬草を求めて
10. ねずみ男ジャングルうろうろ
11. 無気味～アカマタとチンポのたくらみ～
12. ゼオクロノドンの白骨
13. 南方妖怪船攻撃開始
14. 鬼太郎変身
15. 大海獣東京上陸
16. 大海獣東京縦断
17. 幻想鯨浮上
18. 妖怪船
19. 妖怪島偵察
20. 悲しい再会
21. ゲゲゲの鬼太郎（スロウ・ヴァージョン）
22. 同（マーチ・ヴァージョン）
23. 鬼太郎ファミリーVS南方妖怪
24. ゲゲゲの鬼太郎（バトル・ヴァージョン）
25. 優しい鬼太郎
26. ゲゲゲの鬼太郎（ピース・ヴァージョン）
27. カランコロンの歌（歌:憂歌団）





3D CG立体映像

ゲゲゲの鬼太郎 鬼太郎の幽霊電車

脚本／島田 満　演出／細田 守
3DCG（VSL）、3DCGデザイナー／村上 大（チーフ）
美術設定／谷口洋一
※「鬼太郎の幽霊電車」は3D立体CG映像として制作されましたが、2D収録となります。

あらすじ

高坂三太郎は算数のテストで0点を取り、落ち込んでいた。〝テストのあった昨日に戻れれば〟と願う三太郎に、どこからともなく現れたねずみ男が囁く。「妖怪ポストに昨日に戻してくださいって手紙を出しな」と。その言葉通りに三太郎が手紙を出すと、鬼太郎が現れた。幽霊電車で昨日に戻してあげるという鬼太郎について行き、三太郎は電車に乗り込む。最初の停車駅〝おととし〟で三太郎は一昨年田舎に帰ったとき、祠にごみを投げつける自分の姿を見た。たちまち妖怪たちに囲まれ、同じようにごみを投げつけられる三太郎。さらに次の停車駅〝きょねん〟では、亀にマジックでいたずら書きをする自分の姿が……。やはり同様に妖怪たちにいたずら書きされる。そして到着した昨日のテストの時間。しかし三太郎は「もうズルをするのはやめにする」と鬼太郎に誓う。そこで目覚めた三太郎。幽霊電車は夢だったのか？　だが、そのポケットには幽霊電車の切符が残されていた。



解説

本作は99年に東映アニメーションと、デジタルアミューズの小会社であるビジュアルサイエンス研究所（ＶＳＬ）が共同で制作したもので、プロデュースと演出を96年放送の第4シリーズのスタッフが担当した。『鬼太郎』史上初のＣＧ映像であり、専用の偏光レンズ方式メガネをかければ映像が飛び出す３Ｄ（立体）作品でもある。東京・浅草の遊園地、花やしきを皮切りに鳥取・境港の妖怪楽園館や、珍しいところでは高速道路のサービスエリアでも公開・上映された。

『別冊少年マガジン』66年４月15日（５月）号掲載の「ゆうれい電車」に登場のゆうれい（幽霊）電車にまぼろしの汽車の性能をプラス。原作のムードを生かしたオリジナルストーリーに仕上がっている。同じ島田（満）脚本である『おばけナイター』の三太郎を彷彿とさせる〝三太郎少年〟が登場。声も同じ日高のり子が演じた。細田守の叙情溢れる演出はここでもいかんなく効果を発揮している。



あずきとぎ

幽霊電車に乗った三太郎の眼前に、突然妖怪たちが現れ、そこにはあずきとぎの歌声だけが響いていた。他の妖怪と共に三太郎を驚かせた。



海和尚

かつて三太郎にいたずら書きをされた亀の怨念が妖怪化したようで、三太郎を驚かせ、幽霊電車を飲み込んだ。その体内も電車の路線になっていた。



白山坊

三太郎の足首を持って逆さに持ち上げ、「ゴミを捨てるな、捨てるとたたりがあるぞ」と言って脅かした。



高坂三太郎（声／日高のり子）

小学生の男の子。算数のテストで0点を取ったことを悔やみ、昨日に戻ってテストをやり直したいと考えた。鬼太郎によってそれが実現するかと思われたが、彼に誘われるがまま乗り込んだ幽霊電車で恐怖体験をすることになる。『おばけナイター』の三太郎と同一人物かどうかは不明。

ゲゲゲの　鬼太郎　鬼太郎の幽霊電車

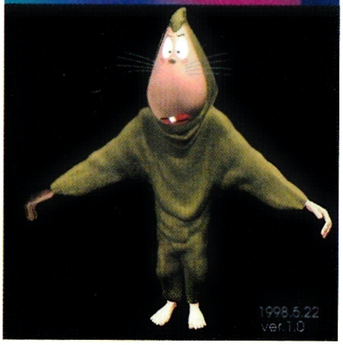
公　開／1999(平成11)年3月20日
上映時間／13分37秒

〈エンディングクレジット〉

■原作／水木しげる■声の出演／鬼太郎(松岡 洋子)、目玉のおやじ(田の中 勇)、ねずみ男(千葉 繁)、三太郎(日高のり子)、あずきとぎ(塩屋 浩三)、白山坊(梅津 秀行)、海和尚(川津 泰彦)■スタッフ■総指揮／工学博士 吉田 健治■企画／相原 晃 (東映)、茂呂 清一(東映アニメーション)、丸山昭一郎 (デジタルアミューズ)、本沢 泰洋 (デジタルアミューズ)■脚本／島田 満■美術設定／谷口 淳一■３ＤＣＧ(ＶＳＬ)／■３ＤＣＧデザイナー　チーフ／村上 大　稲石祐喜子、藤倉 崇徳、平澤 成直、青木 要■幽霊電車デザイン・アニメーション／鈴木 貴光■進行・２Ｄ合成・編集／新井 啓介■プロデューサー／中村 一夫■エグゼクティブ プロデューサー／吉岡 賢■２Ｄ回想シーン 原画／出口としお■２Ｄ回想シーン 製作担当／岡田 将介■音楽／和田 薫■主題歌 「ゲゲゲの鬼太郎」 作詞／水木しげる　作曲／いずみたく　歌・編曲／憂歌団 (ワーナー・ミュージック・ジャパン)■選曲／西川 耕祐■音響効果／今野 康之■録音／今関 種吉■録音スタジオ／タバック■編集スタジオ／モリゴ■プロデューサー／清水 慎治■演出／細田 守







この作品で演出技法の大きなポイントになっているのは、実は「口パク」なんです

細田守インタビュー



ほそだ・まもる
『ゲゲゲの鬼太郎 鬼太郎の幽霊電車』演出

PROFILE 1967年9月19日生。富山県出身。'91年、東映動画入社。『ゲゲゲの鬼太郎 大海獣』(96年)の原画などを手掛けた後、『鬼太郎』第94話で演出デビュー。'05年にフリーに。監督作は他に『時をかける少女』(06年)など。

テレビの『鬼太郎』が終わり、次の『(ひみつの)アッコちゃん』で僕の演出した第6話が放映された直後くらいでしょうか。製作の方から「今度『鬼太郎』をCGで作るので、外部の会社に出向いて演出をやってほしい」と言われました。『幽霊電車』という題材は、清水慎治さんが既に決めていて、島田満さんの第一稿も上がっていました。僕としては、『鬼太郎』は3本しか演出できず、もっとやりたいと思っていたので、喜んで引き受けたんです。それに、CGによる立体映像作品というのもすごく面白そうだった。'98年の5月に話があって、完成予定が翌年の3月だから、随分時間がありました。初めての試みですが、10か月も時間があるので何とかなるだろうと(笑)。『アッコちゃん』や『デジモン(アドベンチャー)』の劇場版を作りながら、並行してVSL(ビジュアルサイエンス研究所)に週1、2回通う、という日々が始まりました。

VSLでは、それまで実写のCG合成やゲーム系が多く、アニメ系の仕事は多分初めてに近かったんです。だからチャレンジだったんじゃないですかね。一方、僕としてもCGの技術を勉強したいという思いがあった。両者の求めているものがちょうど折り合った感じでした。

とはいえ、立体映像の演出には苦労しました。僕らは常にドラマを作ってるわけで、そこにはお話に感情移入させるための段取りがある。ところが立体映像の人からすると「話はともかく、もっとぐいぐい立体を出してくれ」となるわけです。これがなかなか両立しない(笑)。結局、最初はなるべくドラマで見せて、電車が暴走するあたり(ライドシーン)で3D感を思い切り出す、という形にしました。

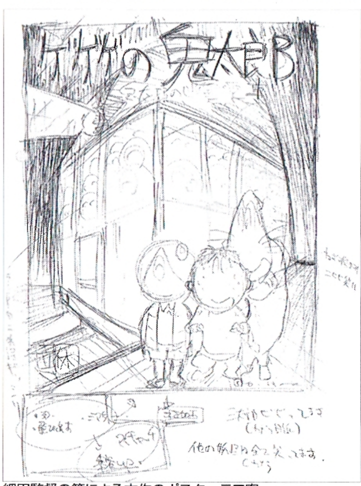
演出指示の出し方も試行錯誤でした。最初はCGアニメーターの方への参考として、10カットくらいのラフ原画を出口としおさんに描いてもらったりしましたけど、結局は口頭で指示を出しながらトライ&エラーを重ねて、芝居を高めていくという方法に落ち着きました。

この作品の動きは、モーションキャプチャーを使わないで、すべて"手づけ"で行っています。生き生きとした動きを表現することに興味のあるCGアニメーターが集まってくれたのがよかったですね。特に稲石祐喜子さんは上手かった。鬼太郎や三太郎の芝居をすごく愛情を持って可愛く動かしてくれました。また、青木要さんも、派手でダイナミックな映像を積極的に作り込んでくれました。海和尚の登場から後半のライドシーンまでは彼の仕事です。あと幽霊電車全般のカットの担当は鈴木貴光さんです。回想シーンも3DCGで表現したかったのですが、そこを担当していた人が悩んだ上に体調を崩してしまったので、仕方なく出口さんにお願いして手描きに変更しました。

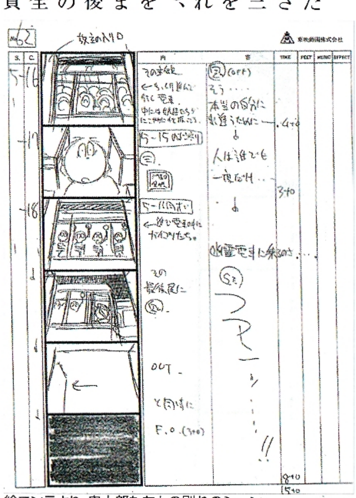
この作品で演出技法の大きなポイントになっているのは、実は「口パク」なんです。それまでの3DCGアニメーションでは、口の動きに合わせた1コマ打ちのリップシンクロが常識だったんですけれど、僕はあえて手描きアニメと同じく、3コマ打ち3枚の口パクでお願いしたんです。CG作品ですが、アニメと同じ表現を使うと、どんな風に見えるか試してみたくて、台詞のところは全部自分でシートを打ちました。最初はスタッフたちも半信半疑だったんですが、やってみるとリップシンクロほど手間がかからない上に、予想以上にCGのキャラがアニメのムードに馴染んでくれたので、「こういう手法もあるのか」と感心してくれました。実はこれ以降、この「3コマ打ち3枚の口パク」を活用した3Dアニメが増えたと聞きました。

'99年の時点では、CGのキャラクターアニメーションとしてよく頑張って作ったと思います。

(2007年6月)



細田監督の筆による本作のポスターラフ案


絵コンテより、鬼太郎たちとの別れのシーン

東映動画の人間には妖怪の血が流れてるから（笑）

清水慎治スペシャルインタビュー



しみず・しんじ
『ゲゲゲの鬼太郎［第4期］』企画、プロデューサー
『ゲゲゲの鬼太郎　大海獣』企画、プロデューサー
『ゲゲゲの鬼太郎　おばけナイター』企画、プロデューサー
『ゲゲゲの鬼太郎　妖怪特急！まぼろしの汽車』企画
『ゲゲゲの鬼太郎　鬼太郎の幽霊電車』プロデューサー

PROFILE　1952年5月26日生。東京都出身。編集、制作を経て、'91年6月、東映動画の企画部へ。プロデュースを務めた代表作は他に『金田一少年の事件簿』（96年）『ONE PIECE』（99年）など。

──清水さんと『鬼太郎』との関わりからお聞かせください。

清水　僕は、1作目、2作目は視聴者として観ていて、不思議な漫画だなぁと思っていたんですね。会社に入り、3作目のときには編集だったんです。楽しかったです。土曜日の夕方、ホンワカとした『鬼太郎』の話が毎週放映されるのを観るのが、スタッフのひとりとしてすごく楽しかった。そんな思いがあったので、自分がプロデューサーになってからは『鬼太郎』の4作目をやりたい、という念願をずっと持ち続けていたわけです。でも、企画はなかなか通らなくて（笑）。それが'95年になり、『学校の怪談』のヒットがきっかけとなって、急に風向きが変わった。「今はこういうブームなのか。『鬼太郎』、いいんじゃないの？」と（笑）。で、ずっと企画を進めていた僕がプロデューサーを務めることになったんです。

──メインスタッフの人選も清水さんが中心になって決められたんですか。

清水　そうです。それがプロデューサーの一番大事な仕事だと思っています。西尾大介さん（監督）、荒木伸吾さん（キャラデザイン、総作監）、浦田又治さん（美術）というアーチストを組み合わせられた時点で、殆ど成功したな、という自負は持ってましたね。しかも、音楽は和田薫さん、主題歌が憂歌団……すごい布陣でしょう？　番組が始まってからも、各話の演出に佐藤順一、貝澤幸男、宇田鋼之介、細田守、角銅博之、境宗久といったうちのエースがどんどん集まって、ライバル心を持って競ってくれて。なかなかこれだけのスタッフは揃わないんじゃない？

──劇場版については、清水さんはどのあたりまでタッチされたんですか。

清水　ひと通りは関わりました。まず最初の『大海獣』については、あれは勝間田（具治）さんへのボクの定年祝いなんだ。勝間田さんってその頃、外部作品ばかりで、20年くらい東映動画の作品の監督を全然やってなかったらしい。それで、59歳くらいのときに、「定年祝いに」というんで僕が頼んだの。

次が、佐藤順一くんの『おばけナイター』だよね。最後にホームランを打つか三振するかで、魂を取られちゃうかどうかが決まる、という展開で……。ライターの島田満さんは「ハッピーエンドにしたいからホームランを打たせたい」と。一方、佐藤くんは「人生の厳しさを子どもの頃から教えないとダメだ。三振にすべきだ」と。こちらは仲裁するので大変だったよ（笑）。結局、僕は島田さんを説得した。30分と短いんだけど、コンパクトによく出来てる作品だったね。冒頭の、路地を回るとどこかへ行く、迷い道みたいな感じも面白かった。太田健介はバンダイの社員です。本人が妖怪（？）みたいなんで特別出演してもらいました。

──3作目の『まぼろしの汽車』は？

清水　僕の名前も載ってるんですが、蛭田（成一）くんのプロデュース作品です。『大海獣』があって、次が野球でしょ。「掴みとして何か派手な要素を入れたほうがいいんじゃない」って蛭田くんに言った憶えはある。それで、3作目は汽車を持ってきたんだと思う。僕が具体的にやったことといえばひとつだけ。東映の本社に行ったとき、映画評論家のクロさんが試写室の前にいたのね。「ちょうどいいから、出ない？」「いいんですか？」って、その場の会話だけで出演を決めちゃった。それで、「悪いけど蛭田くん、クロさんを出してくれない？」って（笑）。

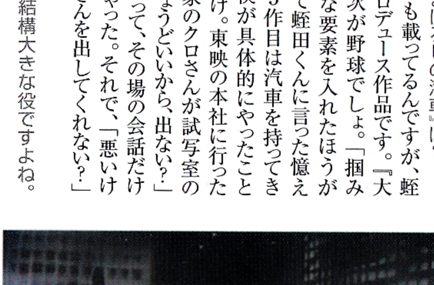
──〝魔女〟って結構大きな役ですよね。そんないきなり振ったんですか。

清水　何も考えてないから（笑）。アフレコの後、クロさんは「私の人生の10大ニュースですよ」って言ってた。「どんなハリウッドの映画スターに会っても、この緊張感には敵わない」って。

あと、細田守の『幽霊電車』。宇田くんが演出したテレビ版が非常に良かったので、あゝいう風なものを3D版でもやれれば、というのが企画の動機だった。細田くんもまだ本格的にブレイクする前ですが、才能のキラメキが随所にあったよね。

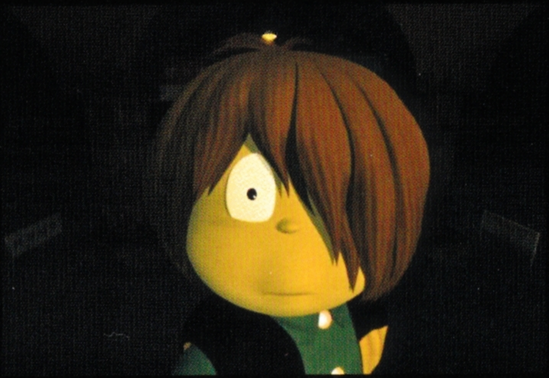
『鬼太郎』はやってて楽しかった。まぁ、僕はどの作品でもそういう風に仕事をやりたいと思ってるんだけど、特に『鬼太郎』はいろんな出会いもあって、面白かったですね。東映動画の人間には妖怪の血が流れてるから（笑）。うちの人間はみな『鬼太郎』が好きなんだと思うよ。

（2007年　5月）



『ゲゲゲの鬼太郎』第4シリーズのタイトルバック

ゲゲゲBOOK
劇場版

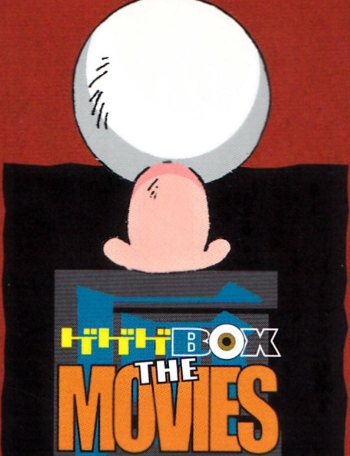


STAFF

■構成・編集／BAD TASTE
■データ作成・取材・執筆
リスト制作委員会：原口正宏、道原しょう子、磯部正義
■取材・執筆／堤 哲哉、大久保一光(BAD TASTE)、岩佐陽一
■デザイン／G-PLUS：長野暁斎、柳井孝之、にゃんころげ
■協力(五十音順)
講談社、ワーナーミュージック・ジャパン、東映、ダイナモピクチャーズ
■資料協力(五十音順・敬称略)／小黒祐一郎(スタジオ雄)、加々美利治
■SPECIAL THANKS(五十音順・敬称略)
荒木伸吾、入好さとる、葛西 治、勝間田具治、
兼森義則、窪 秀巳、佐藤順一、志田正博、芝田浩樹、清水慎治、角田紘一、
新岡浩美、姫野美智、細田 守、山口泰弘、横山賢一、吉澤孝男
■印刷／大日本印刷
■監修／東映アニメーション、フジテレビジョン、水木プロ
■2007年8月3日発行［非売品］

※文中及びデータ中の東映動画はすべて現在は東映アニメーションです。
※作品データ中のスタッフリストは、人名文字の間隔表記などすべて画面表示に準拠しています。声優データのなかで、読点「、」を二つ打ってある箇所は、そこだけ他の行よりもスペースが広く取られていたことを示します。

ないしょの話



ゲゲゲBOX THE MOVIES

DSTD02729